

**61001
保育者論**

W 久家英述

〔概要〕 少子高齢化社会と女性の雇用促進のなか、わが国の就学前教育のあり方は大きな変革期に差しかかっているといわれている。認定こども園の発足をはじめとして、幼稚園と保育所の関係、地域社会における新たな役割などの検討が進む状況を踏まえ、本時では、こうした現代的課題に答え得る保育職の使命と役割を、現状、実践、歴史、主体形成の各次元から説き起こすことを課題として設定する。

〔到達目標〕 1. 保育職の種別と特色を理解させる。2. 保育実践の特質と保育者の役割について理解させる。3. 保育者の歴史を概略理解させる。4. 保育職に関する法制度を理解させる。5. 現代社会における保育者の使命と役割、及び自己形成課題について自覚させる。

〔授業計画〕

- | | |
|----------------------------------|------------------------------|
| 第1回 保育職の意義（制度と実存） | 第9回 保育者の歴史Ⅱ（わが国の黎明期） |
| 第2回 保育職の内容Ⅰ（幼稚園） | 第10回 倉橋惣三の保育観と保育者 |
| 第3回 保育職の内容Ⅱ（保育所） | 第11回 保育者と法Ⅰ（幼稚園） |
| 第4回 保育職の内容Ⅲ（児童福祉施設） | 第12回 保育者と法Ⅱ（保育所・児童福祉施設） |
| 第5回 保育実践と保育者Ⅰ（計画と実践） | 第13回 保育者の自己形成Ⅰ（現代社会と保育者） |
| 第6回 保育実践と保育者Ⅱ（カウンセリングマインドとケアリング） | 第14回 保育者の自己形成Ⅱ（保育者のアイデンティティ） |
| 第7回 保育実践と保育者Ⅲ（省察論） | 第15回 定期試験およびまとめ |
| 第8回 保育者の歴史Ⅰ（オーエンとフレーベル） | |

〔テキスト〕 『保育原理』 森上史郎編著（ミネルヴァ書房）『幼稚園教育要領保育所保育指針』（チャイルド本社）

〔参考文献〕 講義中適宜指示する

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験 90%、平常点 10%

**61002
社会福祉**

S 濱田佐知子

〔授業題目〕 社会福祉の基礎を学ぶ

〔概要〕 社会福祉とは、人間が社会生活を送る上で遭遇するさまざまな困難に対して、福祉政策、地域社会、家族、個人等が協働しながら、課題を解決、あるいは緩和して、よりよい生活を実現していくものである。諸制度や事業について学ぶことは勿論必要であるが、対象者に対する人々の意識や理解なくしてはその本質を問うことは難しい。そのための制度、資源、援助技術等について考えていく。

〔到達目標〕 社会福祉における援助者として必要な、社会福祉の基礎を理解する

〔授業計画〕

- | | |
|----------------------|---------------------|
| 1回目 社会福祉を学ぶにあたって | 9回目 介護保険 |
| 2回目 社会福祉の概念と理念 | 10回目 ノーマライゼーション |
| 3回目 社会福祉政策の動向 | 11回目 精神保健福祉 |
| 4回目 社会福祉の歴史 | 12回目 権利擁護 |
| 5回目 社会福祉従事者の労働と専門性 | 13回目 尊厳死 |
| 6回目 社会福祉関連分野の専門職との連携 | 14回目 地域におけるセーフティネット |
| 7回目 少子高齢化 | 15回目 定期試験及びまとめ |
| 8回目 生活保護 | |

〔テキスト〕 開講時に提示する。鈴木勉編シードブック『社会福祉』 健帛社

〔参考文献〕 講義の際、適宜紹介する

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験 70%、レポート・平常点 30%

61003

社会福祉援助技術

W 鳥海直美 長谷範子

〔概要〕 要〕 保育実践にとって必要な社会福祉援助技術の概要と歴史を理解するとともに、社会福祉援助技術の方法及び内容について学ぶ。

〔到達目標〕 1 保育実践にとって必要な社会福祉援助技術の概要と歴史を理解させる。2 社会福祉援助技術の方法及び内容について理解させる。3 人権の尊重、自立支援、秘密保持等の基本姿勢について理解させる。4 保育士の職務として活用する機会の多い個別及び集団援助技術を事例を用いた演習形態で学び、またコミュニティワーク、ケアマネジメントについても理解させる。

〔授業計画〕

- | | |
|-------------------------|--------------------------------------|
| 1 保育と社会福祉援助技術 | 9 集団援助技術の展開過程 |
| 2 社会福祉援助技術の意味と方法 | 10 保育場面と集団援助技術の実際 |
| 3 社会福祉援助技術の発展過程 | 11 地域援助技術（コミュニティワーク）の意義と機能 |
| 4 個別援助技術（ケースワーク）の意義と機能 | 12 地域援助技術の具体的実践例 |
| 5 個別援助技術の原則 | 13 ケアマネジメント |
| 6 個別援助技術の展開過程 | 14 事例研究（演習）—保育所・児童福祉施設における児童・家族への援助— |
| 7 保育場面と個別援助技術演習 | 15 定期試験およびまとめ |
| 8 集団援助技術（グループワーク）の意義と機能 | |

〔テキスト〕 片山義弘・李木明德 編著、『社会福祉援助技術』北大路書房

〔参考文献〕 適宜紹介する。

〔授業形態〕 講義・演習

〔成績評価の方法〕 平常点等 30 %、定期試験 70 %

61004

児童福祉

W 合田 誠

〔概要〕 要〕 2000年11月に施行された「児童虐待防止法」はすでに2007年5月に2回目の改正がなされ、2008年4月より再スタートを切った。しかしながら児童虐待の相談処理件数は減少するどころか増加の一途をたどっている。その他、子どもを取り巻く環境の変化も見逃せない状況である。本講義は保育士を目指す者にとり「児童福祉の基本」を学び、問題意識がもてる内容となる。

〔到達目標〕 現代の子どもを取り巻く状況を把握し、保育現場等で子ども及び保護者への援助ができる保育士を育てる。

〔授業計画〕

- | | |
|------------------------------|----------------------------|
| 1 児童福祉とは 児童福祉を学ぶにあたって | 8 児童福祉施設の目的と役割②育成系施設、治療系施設 |
| 2 児童福祉の概念と理念 | 9 児童福祉の歴史① 日本、欧米の歩み |
| 3 現代社会と子ども① 少子化の現状と対応 | 10 児童福祉の歴史② 児童観の変遷、権利擁護 |
| 4 現代社会と子ども② 少子化の影響および対策について | 11 分野別① 母子保健、保育サービス |
| 5 児童福祉の法律と制度① 「児童福祉法」等児童福祉六法 | 12 分野別② 養護児童、虐待 |
| 6 児童福祉の法律と制度② 行政機関、(児童相談所など) | 13 分野別③ 障害児、少年非行 |
| 7 児童福祉施設の目的と役割①養護系施設、障害児系施設 | 14 児童福祉専門職 援助技術と相談援助について |
| | 15 定期試験およびまとめ |

〔テキスト〕 山縣文治編著『よくわかる子ども家庭福祉 第5版』（ミネルヴァ書房）

〔参考文献〕 成清美治『現代児童福祉概論』（学文社）

〔授業形態〕 講義・その他（適宜、VTR、資料等使用）

〔成績評価の方法〕 定期試験（70 %）、レポート等の平常の成績（20 %）、平常点（10 %）

61005

養護原理

S 側垣一也

〔授業題目〕子どもと家族に寄り添うために

〔概要〕社会的養育の現状を理解し、その体系や背景や、児童福祉施設の役割について学ぶ。

〔到達目標〕社会的養育に関わる専門家としての保育者の資質や役割、また、子どもや保護者への援助の方法を学ぶ

〔授業計画〕

- | | |
|------------------------|-----------------------|
| 1 オリエンテーション 授業の目的について | 9 同上 (Ⅲ) |
| 2 児童養護の理念について | 10 さまざまな発達障害の理解と援助の方法 |
| 3 社会的養育を必要とする子どもたち | 11 子どもと関わる人々との関係調整 |
| 4 児童養護の歴史 | 12 施設運営の制度と方法の理解 |
| 5 児童養護の体系と社会的システム | 13 子どもの権利保障に関わる課題 |
| 6 施設養護の基本的理解 | 14 個別的援助と集団的援助の方法 |
| 7 児童福祉施設生活する子どもの現状 (Ⅰ) | 15 定期試験とまとめ |
| 8 同上 (Ⅱ) | |

〔テキスト〕小田兼三・石井勲編著『養護原理 (現代の保育学)』ミネルヴァ書房

〔参考文献〕講義中適宜紹介

〔授業形態〕講義・発表

〔成績評価の方法〕定期試験 60 %、レポート 20 %、平常点 20 %

61006

保育原理 I

S 久家英述

〔概要〕保育士資格にとって必修科目であり、基本科目である当科目ではまず保育の本質への理解をもとに、保育の場、歴史と現状、保育実践にまつわる諸原理を学修することを目的とする。

〔到達目標〕1. 保育の意義について明確な認識をもたせ、その依拠する要因を理解させる。2. 保育の場について、その歴史と類型について理解させる。3. 保育所における保育の原理と特性、環境、方法について理解させる。

〔授業計画〕

- | | |
|---------------------------|---|
| 1 保育の本質Ⅰ (保育の意義とその思想) | 10 保育所保育の原理Ⅲ (保育の環境) |
| 2 保育の本質Ⅱ (保育の目標と子どもの発達特性) | 11 保育所保育の内容Ⅰ (保育内容構成の基本方針) |
| 3 保育の本質Ⅲ (保育の原理) | 12 保育所保育の内容Ⅱ (ねらい、内容、領域) |
| 4 保育の場Ⅰ (家庭) | 13 保育所保育の計画Ⅰ (保育計画作成上の基本的視点) |
| 5 保育の場Ⅱ (保育施設・家庭的保育) | 14 保育所保育の計画Ⅱ (保育計画と指導計画)
(保育の計画作成上の留意事項) |
| 6 保育の歴史と現状Ⅰ | 15 定期試験およびまとめ |
| 7 保育の歴史と現状Ⅱ | |
| 8 保育所保育の原理Ⅰ (保育の特性) | |
| 9 保育所保育の原理Ⅱ (保育の目標、保育の方法) | |

〔テキスト〕森上史郎編著『保育原理』(ミネルヴァ書房)『幼稚園教育要領保育所保育指針』(チャイルド本社)

〔参考文献〕講義中適宜指示する

〔授業形態〕講義

〔成績評価の方法〕定期試験 90 %、平常点 10 %

**61007
保育原理Ⅱ**

W 埋橋玲子

〔授業題目〕 保育の本質、目的の理解

〔概要〕 『保育所保育指針』と『保育環境評価スケール①幼児版』を対比させながら物的・人的環境の重要性を学ぶとともに「評価」について基礎的な考え方を学ぶ。

〔到達目標〕 『保育所保育指針』に示された内容を具体的により理解し、物的、人的な環境の構成、保育評価の基礎的知識を得る。

〔授業計画〕

- | | |
|---------------------------------|-------------------------|
| 1 保育指針にみる環境の考え方と『保育環境評価スケール』の接点 | 8 活動 |
| 2 現状認識の手段としての評価 | 9 相互関係 |
| 3 『保育環境評価スケール』の基本的な考え方 | 10 保育計画 |
| 4 ビデオトレーニング | 11 保護者と保育者 |
| 5 空間と家具について | 12 日本の保育の事例 |
| 6 個人的な日常のケアについて | 13 外国の保育の事例 |
| 7 言語—推理 | 14 保育指針と『保育環境評価スケール』の対照 |
| | 15 定期試験及びまとめ |

〔テキスト〕 T. ハームス『保育環境評価スケール① 幼児版』法律文化社

〔参考文献〕 講義中適宜指示する。

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験 90 %、平常点 10 %

**61008
教育原論**

S 久家英述

〔概要〕 当科目は幼稚園教諭・保育士資格にかかる必修科目であり、基本科目である。ここでは、教育の意義や目的、教育と児童福祉との関連の把握をもとに、教育と教育学にまつわる基礎的な概念や理論、思想史を踏まえるとともに、教育制度と教育の実践原理を学習し、あわせて生涯学習に関する知見を養うことをねらいとする。

〔到達目標〕 1. 教育の意義・目的及び児童福祉との関連性について理解させる。2. 教育の基礎的な概念、理論、歴史について学び、教育に関する体系的知識を習得させる。3. 教育の制度と基本的な実践原理及び指導原理について理解させる。4. 生涯学習社会における教育の在り方について考える。5. 教育学的な思考や態度を習得させる。

〔授業計画〕

- | | |
|--------------------------------------|---|
| 第1回教育の意義、目的及び児童福祉との関連性Ⅰ（教育の意義と目的） | 第7回教育の制度Ⅰ（教育制度の基礎） |
| 第2回教育の意義、目的及び児童福祉との関連性Ⅱ（教育と児童福祉の関連性） | 第8回教育の制度Ⅱ（教育法規・教育行政の基礎） |
| 第3回教育の基礎的な概念と諸理論Ⅰ（諸外国の教育理論） | 第9回教育の制度Ⅲ（諸外国の教育制度） |
| 第4回教育の基礎的な概念と諸理論Ⅱ（幼児教育の理論） | 第10回教育の実践Ⅰ（教育の内容） |
| 第5回教育の歴史Ⅰ（諸外国の教育史）（日本の教育史） | 第11回教育の実践Ⅱ（教育の方法） |
| 第6回教育の歴史Ⅱ（子ども観と教育観の変遷） | 第12回教育の実践Ⅲ（教育指導の原理と形態） |
| | 第13回生涯学習社会における教育（生涯学習の基礎）（生涯学習社会における教育） |
| | 第14回現代の教育問題 |
| | 第15回定期試験およびまとめ |

〔テキスト〕 田原恭蔵・林勲編『教育概論』（法律文化社）『幼稚園教育要領保育所保育指針』（チャイルド本社）

〔参考文献〕 講義中適宜指示する

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験 90 %、平常点 10 %

**61009
仏教保育論**

W 久家英述

〔概要〕 聖徳太子の仏教精神である悉有仏性、自利利他はもともと保育の理念を含むものであるが、当科目はその精神に立って広く仏教の原理から人格の完成の基礎を築こうとする、仏教保育の原理と実践展開の方法の修得を課題とするものである。

〔到達目標〕 ①仏教保育の理念・内容・方法を理解させる。②仏教保育を通して宗教教育の理念と意義を理解させる。③保育人間学についての知見を得させる。

〔授業計画〕

- | | |
|-----------------------|---------------|
| 1 オリエンテーションーなぜ仏教保育なのか | 9 仏教保育の歴史Ⅰ |
| 2 憲法・教育基本法と宗教教育 | 10 仏教保育の歴史Ⅱ |
| 3 教育にとっての宗教 | 11 「善さ」と保育 |
| 4 宗教教育と仏教保育 | 12 「純粹経験」と保育 |
| 5 仏教保育の基礎知識Ⅰ | 13 「自覚」と保育 |
| 6 仏教保育の基礎知識Ⅱ | 14 「超越」と保育 |
| 7 生活教育としての仏教保育Ⅰ | 15 定期試験およびまとめ |
| 8 生活教育としての仏教保育Ⅱ | |

〔テキスト〕 資料配布

〔参考文献〕 『仏教保育総論』（チャイルド本社）

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験 90 %、平常点 10 %

**61010
発達心理学**

S 松山由美子

〔概要〕 人間の一生全般にわたる発達を段階的にとらえ、その中でも重要な乳幼児期の発達についての基本的な知識について学びます。また、保育場面で出会う発達障害についての知識と発達心理学的見地から検討されている援助方法についても事例をもとに学び、考えます。

〔到達目標〕 保育の営みである幼児の発達の援助に必要な子どもの発達について理解することを目的とします。理解すべき学習内容は以下のとおりです。1) 人間の受精・誕生から死までの発達。特に胎児期から幼児期。2) 人間の発達期。3) 子ども達の将来に影響を及ぼす保育者と子どもとの相互交渉。4) 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」の発達に関する項目。

〔授業計画〕

- | | |
|--------------------------------|--|
| 第1回 発達心理学とは・なぜ発達心理学が必要なのか | 第8回 発達期の特徴 (3) 乳児期 |
| 第2回 発達心理学の方法 (観察技法)・人間の生涯発達 | 第9回 発達期の特徴 (4) 児童期・青年期 |
| 第3回 人間の発達段階 (胎児期から老人期まで) | 第10回 発達期の特徴 (5) 成人期・老人期 |
| 第4回 子どもの発達 (1) 初期経験の重要性 動物との比較 | 第11回 発達心理学を支える基礎的な理論 (ピアジェ、エリクソンの発達理論) |
| 第5回 子どもの発達 (2) 知能・身体・情動の発達 | 第12回 子どもの発達と保育 (1) 幼稚園教育要領・保育所保育指針 |
| 第6回 発達期の特徴 (1) 胎児期・新生児期 | 第13回 子どもの発達と保育 (2) 発達障害 |
| 第7回 発達期の特徴 (2) 幼児期 (前期・後期) | 第14回 子どもの発達と保育 (3) ヴィゴツキーの発達理論 |
| | 第15回 定期試験とまとめ |

〔テキスト〕 高橋道子ほか『子どもの発達心理学』（新曜社）文部科学省・厚生労働省児童家庭局『幼稚園教育要領・保育所保育指針（原本）』（チャイルド本社）

〔参考文献〕 中島誠（編）『〔増補〕発達臨床心理学』（ミネルヴァ書房）G.Butterworth ほか（原著）『発達心理学の基本を学ぶ』（ミネルヴァ書房）

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験 70 %、平常点 30 %

**61021
教育心理学**

W 石上浩美

〔授業題目〕 教育について心理学的に考える

〔概要〕 保育、教育の実践にとって重要な教育心理学の基本的事項、用語について理解する。子どもの発達に応じた教育的かかわりを理解し保育の中の教育的要素に関する相談への対応能力を身につける。

〔到達目標〕 1. 人間の発達について理解する。2. 発達を促す教育的働きかけの基礎となる理論を理解する。3. 生徒が抱える問題の理解と援助について考察する。

〔授業計画〕

- | | |
|-------------|---------------------|
| 1 教育心理学とは何か | 9 パーソナリティと適応 |
| 2 教育と発達 | 10 学級集団 |
| 3 学習の原理 | 11 不登校・いじめ・暴力行為 |
| 4 意欲と動機づけ | 12 発達障害を持つ子どもの理解と対応 |
| 5 知能と学力 | 13 これからの特別支援教育 |
| 6 教授—学習過程 | 14 教育相談の進め方 |
| 7 教育評価 | 15 定期試験 |
| 8 教育測定と統計 | |

〔テキスト〕 本郷一夫・八木成和著『シードブック 教育心理学』（建帛社）

〔参考文献〕 適宜資料を配布する

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験 80 %、平常点 20 %

**61022
小児保健 I**

S 毛受矩子

〔授業題目〕 子どもの体とこころの発育発達 I

〔概要〕 生命の保持と情緒の安定を図る保育において、小児の健康の意味を理解し、今日の小児の心身の健康上の問題に適切に対応し得る力を習得する。と同時に、保育士として必要な小児基礎看護及び救急処置に対する実施の知識と指導を行う。また小児の健康が家庭や地域と密接な関係があることを認識し、家庭や地域との連携を通じた保健活動の重要性を理解する。

〔到達目標〕 小児保健をめぐる医学的・社会的課題を理解し、小児の健康の保持増進に向けた疾病予防と異常の早期発見の重要性を理解することができる知識と能力を養う。

〔授業計画〕

- | | |
|-----------------------|---------------------------|
| 1 小児の健康の定義と健康に影響をする要因 | 9 小児の栄養 |
| 2 小児の健康と保育との関係 | 10 小児各時期の食生活の実際 |
| 3 小児の健康と家庭・地域の関連 | 11 小児各時期の健康づくりの意義 |
| 4 小児の健康指標と小児保健水準 | 12 小児各時期の健康づくりの実践 |
| 5 小児の身体的発育とその評価 | 13 小児期の健康状態の評価 |
| 6 精神運動機能の発達の特徴とその評価 | 14 小児期の疾病の特徴と小児期で多く見られる疾病 |
| 7 生理機能と小児の生活 | 15 定期試験とまとめ |
| 8 発育・発達を促す保育の実際 | |

〔テキスト〕 「澤田 淳編 最新小児保健」 日本小児医事出版社・配布資料

〔参考文献〕 「国民衛生の動向」 財団法人厚生統計協会

〔授業形態〕 講義・演習・発表

〔成績評価の方法〕 定期試験 70 %、平常点 30 %

61023

小児保健Ⅱ

S 毛受矩子

〔授業題目〕 子どもの体とこころの発育発達Ⅱ

〔概要〕 小児の健康状態を、個人生活と保育生活等の集団生活レベルで理解させると同時に小児の疾病異常や事故の特徴とその予防について理解し、さらに緊急時の基礎的対応を可能にさせる。また小児の健康が家庭や地域との密接な関係にあることから関係機関との連携や地域ネットワークの重要性も理解する。

〔到達目標〕 「小児保健Ⅰ」の基礎のうえに、小児の特徴的な疾患を理解し、集団保育での疾病の予防とケアができ、また子ども虐待問題の早期発見、対応ができる知識と能力を養う。

〔授業計画〕

- | | |
|------------------------|-------------------------|
| 1 心身の状態と保育現場で必要な応急処置 | 9 児童福祉施設における保健活動の基本的方針 |
| 2 予防接種 | 10 各種の児童福祉施設の特徴と健康管理の実際 |
| 3 児童虐待をめぐる養育上の問題と心身の健康 | 11 保健活動における連携 |
| 4 慢性疾患と支援体制 | 12 地域・母子保健の意義 |
| 5 不慮の事故と安全対策、小児の事故の特徴 | 13 母子保健サービスの実際 |
| 6 事故と心身の被害と応急処置 | 14 母子保健サービスと保育との連携 |
| 7 事故防止対策と安全教育 | 15 定期試験とまとめ |
| 8 事故や災害と精神保健 | |

〔テキスト〕 「澤田淳編 最新小児保健」 日本小児医事出版社・配布資料

〔参考文献〕 「国民衛生の動向」 財団法人厚生統計協会

〔授業形態〕 講義・演習・発表

〔成績評価の方法〕 定期試験 70 %、平常点 30 %

61024

小児保健実習

S 花岡朋子

〔概要〕 小児保健で習得した知識を基礎として、子どものかかりやすい病気の知識、予防法、病気やけがの応急処置、異常の早期発見など、広く保育の場において実践できる応用的能力を身につける

〔到達目標〕 小児保健で学んだ理論をふまえ、広く保育の場において実践できる応用力と技術を習熟する。

〔授業計画〕

- | | |
|--------------------------------------|------------------------------|
| 1 小児保健実習の意義と実習の心得 | 8 小児の疾病とその予防対策 |
| 2 小児の健康状態の観察（バイタルサイン測定と身体観察） | 9 小児の看護（一般看護、症状に対する看護、疾病の看護） |
| 3 小児の身体発育の測定方法と評価 | 10 応急処置 |
| 4 小児の精神・運動機能の発達 発育の観察とその評価 | 11 包帯法 |
| 5 小児の養護（保育環境について） | 12 乳幼児の救急蘇生法 |
| 6 小児の養護（乳児の抱き方、寝かせ方、背負い方、オムツ交換、沐浴など） | 13 体位、運搬法 |
| 7 事故防止と安全教育 | 14 集団保育における健康管理 |
| | 15 定期試験とその解説 |

〔テキスト〕 白野幸子著『小児保健実習』（医歯薬出版）

〔参考文献〕 適宜紹介

〔授業形態〕 講義・実習・AV 機器使用

〔成績評価の方法〕 定期試験 60 %、実習 40 %（平常点）

61025

小児栄養 (2人リレー)

S

青樹久恵 松本珠希

〔授業題目〕 小児栄養の基礎知識と技能を養う

〔概要〕 小児期の栄養と食生活は生涯にわたる健康と生活の基礎であることを理解し、小児期から成人にいたる一貫した食生活の意義を学ぶ。また保育者として、保育との関連のなかで、小児に適切な食事が提供できることの意義と保育における食生活が心の健康にも影響することを理解させる。さらに、食生活が、家族の健康や生活、地域との密接な関係があることを学び、食生活を通じて、生活全般や環境の望ましい姿を理解させる。

〔到達目標〕 小児栄養の意義と重要性および小児期における食生活の特徴について詳しく学ぶとともに、保育の現場における健全な食習慣形成と食の安全推進に役立つ知識とスキルを習得する。

〔授業計画〕

- | | |
|----------------------------|-----------------------|
| 1 小児の健康な生活と食生活の意義 | (4) 乳児期の栄養上の問題と健康への対応 |
| (1) 小児の心身の健康や生活と食生活の関係 | 8 幼児期の食生活 |
| (2) 家庭・地域における食生活の実態と小児の食生活 | (1) 幼児期の心身の特徴と食生活の関係 |
| 2 小児の発育・発達と食生活 | (2) 幼児期の食生活の特徴とその実践 |
| (1) 身体発育・精神運動機能発達と栄養・食生活 | (3) 間食の意義とその実践 |
| (2) 食べる機能・消化吸収機能発達と栄養・食生活 | (4) 幼児期の栄養上の問題と健康への対応 |
| 3 栄養に関する基礎知識 | 9 学齢期・思春期の食生活 |
| (1) 栄養素、栄養生理、代謝に関する基礎知識 | (1) 学齢期・思春期の心身の特徴と食生活 |
| (2) 食事摂取基準の意義とその活用 | (2) 学齢期・思春期の具体的な食生活 |
| 4 栄養に関する基礎知識 | (3) 学校給食と栄養教育 |
| (3) 小児の集団生活と献立作成・調理の基本 | 10 小児期の疾病と食生活 |
| (4) 栄養状態の評価 | (1) 小児の疾病の特徴と食生活 |
| 5 妊娠・授乳期の食生活 3 | (2) 摂食障害と食生活のあり方 |
| (1) 妊娠のメカニズムと正常な妊婦の食生活 | (3) 症状別の食生活 |
| (2) 母乳分泌と母乳分泌促進の食生活 | (4) 食事療法 |
| (3) 妊娠・分娩の異常と食生活 | (5) 不適切な食生活と健康障害 |
| (4) 胎児と食生活 | 11 障害をもつ小児の食生活 |
| 6 乳児期の食生活 | (1) 障害の特徴と食生活 |
| (1) 乳児期の心身の特徴と食生活の関係 | (2) 障害児の食生活の実際 |
| (2) 乳汁栄養(母乳栄養・人工栄養・混合栄養) | 12 児童福祉施設における食生活 |
| 7 乳児期の食生活 | (1) 児童福祉施設の特徴と食生活の基本 |
| (3) 離乳の意義とその実践 | (2) 児童福祉施設の給食の基本的方針 |
| | (3) 食事による健康障害とその予防 |
| | (4) 栄養・食生活に関する教育や指導 |
| | 13 小児栄養実習①(青樹担当) |
| | 14 小児栄養実習②(青樹担当) |
| | 15 定期試験とその解説 |

〔テキスト〕 上田玲子 編著 『改訂 子どもの食生活—保育と小児栄養—』(ななみ書房)

〔参考文献〕 大谷貴美子 編 『よくわかる小児栄養』(ミネルヴァ書房)、加藤初枝・牧野直子 監修 『0～5歳まで使えるはじめての離乳食+こどもごはん』

〔授業形態〕 講義・演習・実習・双方向授業・AV機器使用

〔成績評価の方法〕 定期試験70%、小テスト(レポート)等20%、平常点10%

61026

精神保健

W 武中美佳子

〔授業題目〕心の健康について

〔概要〕小児の精神発達を促す適切な保育のあり方を理解し、心の健康障害に対する保育における適切な対処のあり方を学ぶ。加えて、小児の心の健康に関して家庭・地域・保育の連携の重要性を理解し、そのあり方を考察する。

〔到達目標〕保育者として必要とされる小児の精神保健に関する主要テーマ（心身症・虐待・発達障害等）についての理解を深める。

〔授業計画〕

- | | |
|------------------------------|-------------------------------------|
| 1 精神保健とは | 9 発達障害の理解と対応（1）言語発達遅滞と
言語障害 |
| 2 子どもの発達と精神保健 | 10 発達障害の理解と対応（2）知的障害 |
| 3 心の問題の理解と対応（1）愛着障害 | 11 発達障害の理解と対応（3）小児自閉症 |
| 4 心の問題の理解と対応（2）心身症 | 12 発達障害の理解と対応（4）学習障害と注意
欠陥・多動性障害 |
| 5 心の問題の理解と対応（3）習癖 | 13 発達障害の理解と対応（5）身体的障害 |
| 6 心の問題の理解と対応（4）いじめ、盗み、
乱暴 | 14 慢性疾患の理解と対応 |
| 7 心の問題の理解と対応（5）緘黙、ひきこも
り | 15 定期試験およびまとめ |
| 8 心の問題の理解と対応（6）児童虐待 | |

〔テキスト〕品川浩三編『精神保健 教育・保育双書』（北大路書房）

〔参考文献〕適宜紹介

〔授業形態〕講義・双方向授業

〔成績評価の方法〕定期試験70点、平常点30点

61027

家族援助論

S 毛受矩子

〔授業題目〕子育ては家族支援から

〔概要〕1. 保育所がもつ「子育て支援」を重要な社会的役割として理解し、児童・親を含めた家族が保育の対象であることを理解させる。2. 子育て支援は保育所だけでなく、その他の児童福祉施設の親についても同様に必要とされることを理解させる。3. 現在の家族を取り巻く社会環境における家族生活、とくにその人間関係（夫婦・親子・きょうだい）のあり方を理解すること及びそれをふまえて適切な「相談・助言」を行うことは「子育て支援」のために欠かせないものであることを理解させる。4. 以上を踏まえ、それぞれの家族のニーズに応じた多様な支援対策を提供させるため、児童福祉の基礎となる家族の福祉を図るための種々の援助活動及び関係機関との連携について理解させる。

〔到達目標〕子どもとその家族が抱える課題が理解でき、子どもの心身の発育発達が保障されるための家族支援のあり方について理解し考察できる能力を養う。

〔授業計画〕

- | | |
|-----------------------------------|-------------------------------|
| 1 家族の意味と家族機能（定義） | 8 今日における家庭生活ときょうだい関係 |
| 2 家族を取り巻く社会的状況と支援体制（都市
化） | 9 「子育て」から見た家族の課題と子育て支援の
意義 |
| 3 家族を取り巻く社会的状況と支援体制（核家
族化と少子化） | 10 子育て支援サービスの範囲 |
| 4 男女共同参画社会の進展 | 11 「相談・助言」という子育て支援 |
| 5 家族の福祉を図るための社会資源 | 12 虐待などへの対応と家族支援 |
| 6 今日における家庭生活と子どもからみた夫婦
関係 | 13 子育て支援サービスの課題と具体的展開 |
| 7 今日における家庭生活と親子関係 | 14 関係機関との連携 |
| | 15 定期試験とまとめ |

〔テキスト〕柏女霊峰・山縣文治著「家族援助論」 ミネルヴァ書房

〔参考文献〕講義中適宜指示する。

〔授業形態〕講義・実習・発表

〔成績評価の方法〕定期試験70%、平常点30%

61028

幼児教育課程総論

S 松山由美子

〔概要〕 幼児教育における教育課程について、その変遷、編成や保育計画の作成に必要な基本的な知識、そして実践との関連を学びながら、幼児教育の意義と目的について理解し、さまざまな教育観・保育観を学びます。理論を学ぶことで自らの保育観・教育観を振り返り、自らの保育実践に活かしましょう。

〔到達目標〕 幼児教育における教育課程についての基礎事項を修得し、教育課程に基づいた保育方法・保育実践の基礎的・基本的な理論を理解することを目的とします。理解すべき学習内容は以下のとおりです。1) 幼児教育における教育課程の意義と目的。2) 幼稚園教育課程の原理・変遷・編成方法と具体的実践の関連。3) 教育課程・幼稚園教育の現状と課題。

〔授業計画〕

第1回 オリエンテーション・幼児教育とは何か	第9回 保育における個と集団
第2回 保育の制度と現状・幼稚園の機能と役割	第10回 教育課程と教育計画
第3回 幼児教育における教育課程	第11回 遊びと学びに関する理論
第4回 「幼稚園教育要領」	第12回 子どもの発達と教育課程の編成
第5回 保育内容・「5領域」	第13回 時代の変化と幼稚園の特色（国際化・情報化・幼少連携）
第6回 保育内容の歴史的系譜	第14回 諸外国における就学前教育
第7回 幼児教育と環境の構成 「環境による保育」の意味	第15回 定期試験
第8回 教育課程と保育形態	

〔テキスト〕 小田豊ほか『教育課程総論』（北大路書房）文部科学省・厚生労働省児童家庭局『幼稚園教育要領・保育所保育指針（原本）』（チャイルド本社）

〔参考文献〕 講義中適宜指示する

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験 70%、平常点 30%

61029

教育の方法・技術

W 松山由美子

〔概要〕 教育の歴史や社会的機能、さまざまな教育観・保育観を学びます。幼児教育の方法として、単なるスキルを学ぶのではなく、幼児の発達特性や現代の多様な生活環境などをふまえた教育理論として、理論および実践そして評価・アセスメントを含む系統性を持つ理論と学ぶことを目的とします。また、高度情報コミュニケーション社会における保育や、情報機器、特にコンピュータを活用した教材の開発や理論も学びます。また、保育におけるメディア活用についても、実際に現場で使用されている教材などを見ながら学びます。理論を学ぶことで自らの保育観・教育観を振り返り、自らの保育実践に活かしましょう。

〔到達目標〕 幼児教育における教育方法の理論についての基礎事項を修得し、教育課程に基づいた保育方法・保育実践の基礎的・基本的な理論を理解することを目的とします。さらに、メディア活用を含む ICT 社会における保育について考えることを目的とします。理解すべき学習内容は以下のとおりです。1) 就学前教育の歴史と社会的機能。2) 教育方法と評価に関する理論。3) 教材に関する基礎理論。4) 保育と ICT 社会・メディア。

〔授業計画〕

第1回 オリエンテーション・教育とは何か	第9回 教育の評価法とその特徴
第2回 教育方法に関する理論（1）教育方法論の歴史の変遷	第10回 学習環境の構成と「環境による保育」
第3回 教育方法に関する理論（2）近代・現代の教育方法理論	第11回 教材論・教材の活用
第4回 学びとコミュニケーション理論	第12回 保育におけるメディア活用（1）テレビ番組
第5回 就学前教育の歴史	第13回 保育におけるメディア活用（2）パソコン教材
第6回 学習指導要領・幼稚園教育要領の変遷	第14回 ICT 社会における保育と子どもの未来
第7回 カリキュラムに関する理論	第15回 定期試験
第8回 学力と「生きる力」	

〔テキスト〕 特になし

〔参考文献〕 西之園晴夫ほか『教育の方法と技術』（ミネルヴァ書房）村上優ほか『保育の創造を支援するコンピュータ』（保育出版社）

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験 70%、平常点 30%

61030

保育内容総論

S 久家英述

〔概要〕 要〕 保育所をはじめとする児童福祉施設において、保育を実践するために必要となる保育の内容や計画の具体的な展開を学ぶ。特に、児童の生活と発達の視点を示す5領域の基本や、保育を実際に運営する計画、方法、記録について実践的に学び、保育の内容を総合的に理解する。

〔到達目標〕 1. 保育実践のなかでの保育内容の位置および内容を理解させる。2. 保育内容の構造を理解させる。3. 生活と発達と遊びの関係から保育内容のあり方を捉えなおす。4. 現代社会の変容との関係で保育内容の再構成の視点を把握させる。

〔授業計画〕

1 保育内容とは	6 子どもの生活と保育内容 I	11 発達の捉え方と保育内容 II
2 保育のねらい及び内容 I	7 子どもの生活と保育内容 II	12 保育内容と保育計画 I
3 保育のねらい及び内容 II	8 遊びの捉え方と保育内容 I	13 保育内容と保育計画 II
4 保育内容としての5領域 I	9 遊びの捉え方と保育内容 II	14 現代社会の変容と保育内容
5 保育内容としての5領域 II	10 発達の捉え方と保育内容 I	15 定期試験及びまとめ

〔テキスト〕 森上史郎編著『保育原理』（ミネルヴァ書房）『幼稚園教育要領保育所保育指針』（チャイルド本社）

〔参考文献〕 講義中適宜指示する

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験 90 %、平常点 10 %

61041

保育内容 I (健康)

S 東 隆史

〔授業題目〕 「健康」の意義とねらいの理解

〔概要〕 要〕 幼児期における領域「健康」の意義やねらいについて理解する。特に、子どもの心身諸機能の発達について理解し、その発達段階での運動遊びがもたらす影響について考える。

〔到達目標〕 毎回の講義での重要なポイントを理解し、子どもの健康に関する保育者としての基本的な態度を身につけることを目標とする。

〔授業計画〕

1 運動と健康	8 幼児の発達理解（精神的発達）
2 ストレスと健康	9 情緒の発達と運動遊び
3 運動と脳	10 幼児の安全管理・事故発生のメカニズム
4 幼稚園教育要領および保育所保育指針における領域「健康」のねらいと内容	11 幼児の生活スタイルと健康
5 幼児の発達理解（身体の発達）	12 遊び集団と人間関係
6 運動機能の発達	13 まとめ
7 子どもの体力の現状	14 総合確認問題によるチェック
	15 定期試験 60分+補講 30分

〔テキスト〕 配布資料

〔参考文献〕 山下謙智他著『多関節運動学入門』（ナツ）

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験 60 %、平常点 40 %

61042

保育内容Ⅱ（人間関係）

W 松山由美子

〔概要〕 子どもは家庭生活を基礎に、幼稚園・保育所において集団生活での友達や保育者とのかかわりを通して人と関わる力を身につけていきます。保育者として、乳幼児期にふさわしい社会性に富んだ環境の構成や援助の方法について学びます。グループ討議や発表などを通して、自分が考える援助や環境の構成について振り返り、深めていくことで、自分が保育における人的環境として自覚する心を育て、実践力を高めます。

〔到達目標〕 領域「人間関係」のねらいと内容、子どもへの援助方法を理解し、実践力を高め、自らの保育方法や援助を考察し振り返ることを目的とします。学習内容は以下のとおりです。1) 事例をもとにした、幼稚園・保育所等における子どもが人とかかわる力をはぐくむための援助。2) 子どもたちの人間関係を育む環境の構成。3) 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」の人間関係に関する項目。

〔授業計画〕

- | | |
|-----------------------------------|--|
| 第1回 オリエンテーション、領域「人間関係とは」 | 第9回事例研究（2）保護者対応も含む保育者の援助：かみつきをする子ども |
| 第2回 領域「人間関係」と幼稚園教育要領・保育所保育指針 | 第10回 乳児クラスでの人間関係：信頼関係の構築と個の育ち |
| 第3回 ICT社会におけるコミュニケーション能力 | 第11回 幼児クラスでの人間関係：集団と個の育ち・友達とのかかわり |
| 第4回 道徳性・マナールールを子どもが身につけるための援助 | 第12回 異年齢集団の遊びと人間関係、国際化社会における保育 |
| 第5回 集団保育で「気になる子」への保育者の援助 | 第13回 保育者の役割とチーム保育、保護者・地域・小学校との連携 |
| 第6回 一斉保育場面での「人間関係」、指導計画と関連・保育の展開 | 第14回 領域「人間関係」の評価・視点—幼稚園幼児指導要録・保育所児童保育要録から学ぶ— |
| 第7回 遊びの中での「人間関係」、友達とのかかわり・けんかなど | 第15回 定期試験とまとめ |
| 第8回事例研究（1）保育者との信頼関係の育成：自分を出せない子ども | |

〔テキスト〕 文部科学省・厚生労働省児童家庭局『幼稚園教育要領・保育所保育指針（原本）』（チャイルド本社）
文部科学省『幼稚園における道徳性の芽生えを培うための事例集』（ひかりのくに）

〔参考文献〕 西頭三雄ほか『保育内容「人間関係」を学ぶ』（福村出版）柴崎正行ほか『幼稚園幼児指導要録 記入の実際と用語例』（フレーベル館）幼少年教育研究所『幼稚園幼児指導要録 記入の実際と用語例』（すずき出版）

〔授業形態〕 講義・演習・発表

〔成績評価の方法〕 定期試験 70%、平常点（レポート含） 30%

61043

保育内容Ⅲ（環境）

S 竹村壽美子

〔授業題目〕 「環境」を通しての保育とは

〔概要〕 幼児期における領域「環境」の意義やねらいについて理解する。特に環境をとおして保育を総合的にとらえるという視点を養う。また、幼児期の保育は「環境」を通して行うことを理解し、保育方法に展開できる実践力を修得する。

〔到達目標〕 保育者の専門性のひとつとして、みずから「環境」を見る目を育てていくことを授業の最終到達目標とする。そのために、環境とかかわる保育内容の創造、子どもにとってぬくもりのある豊かな環境をデザインすることの、具体的方法など演習をとおして修得する。

〔授業計画〕

- | | |
|-----------------|---------------------------|
| 1 オリエンテーション | 9 子どもの好奇心・興味と環境 |
| 2 保育内容「環境」の意義 | 10 保育を総合的にとらえること |
| 3 保育内容「環境」と幼児理解 | 11 環境を構成する（1） |
| 4 物的環境・素材用具・道具 | 12 環境を構成する（2） |
| 5 人的環境と保育者 | 13 日常生活の中での興味・関心・時間・空間の認識 |
| 6 人的環境と友達・地域・行事 | 14 数量・図形・文字・標識の認識 |
| 7 自然環境と子どもの育ち | 15 定期試験・まとめ |
| 8 環境と保育者の価値観 | |

〔テキスト〕 文部省・厚生家庭局著『幼稚園教育要領・保育所保育指針』（文部省・厚生家庭局・〔チャイルド本社〕）

〔参考文献〕 『保育内容「環境」』小田豊・湯川秀樹著（北大路書房）

〔授業形態〕 講義・演習・実習・レポート

〔成績評価の方法〕 定期試験 60点、平常点 40点

61044

保育内容Ⅳ（言葉）

W 早川勝廣

〔授業題目〕 子どものことばを育てる

〔概要〕 言葉の育ちは、人間としての形成を根底から支える。保育所や幼稚園での集団生活・遊びを通して、友だちとかかわり、伝えあう力を形成する。

〔到達目標〕 領域「言葉」の内容を理解し、言葉育ての方法を身につける。ことばの育ちのプロセスと、習得の機構を把握する。

〔授業計画〕

- | | |
|-------------------|----------------|
| 1 ことば育ちをどう問うか | 9 物語体験と物語づくり |
| 2 子どもはことばをどう獲得するか | 10 物語スキーマと知的発達 |
| 3 初期発達の課題 | 11 イメージ力と表現力 |
| 4 母子関係とコミュニケーション | 12 表現環境と表現意欲 |
| 5 対話ことばの育ち | 13 保育者の表現力 |
| 6 対話ことばから語りことばへ | 14 人間形成とことば育ち |
| 7 人とかかわる力と語りあう力 | 15 定期試験とまとめ |
| 8 絵本との出会い | |

〔テキスト〕

〔参考文献〕 講義中にプリント配布

〔授業形態〕 講義・演習・双方向授業・言語事象分析

〔成績評価の方法〕 平常点 30 %、課題 30 %、テスト 40 %

61045

保育内容Ⅴ（表現活動・音楽）

S 原 祐子

〔概要〕 領域「表現」の意義やねらいについて、「感性と表現」の領域であることを踏まえて理解する。音楽の技術指導に偏らず、音に溶け込んだ子どもの想いを音楽へとつなげ、豊かな心の表現へと高めてゆけるよう援助できる力を身につける。

〔到達目標〕 保育現場において保育を実践するために必要となる、表現活動（音楽）の内容や方法を理解し、その計画の具体的な展開について学ぶ。

〔授業計画〕

- | | |
|---------------------------|----------------------------|
| 1 領域「表現」の意味：音の世界 | 唱しよう) |
| 2 音による表現：既製の楽器で合奏しよう | 10 音による表現：図形楽譜を演奏しよう |
| 3 音による表現：〃 | 11 音による表現：〃 |
| 4 音による表現：〃 | 12 音による表現：ガラクタ楽器で演奏しよう |
| 5 体のうごきによる表現：音楽に合わせて | 13 音による表現：〃 |
| 6 体のうごきによる表現：イメージをふくらませて | 14 体のうごきによる表現：ボディ・パーカッション、 |
| 7 音を拾いに外へ出よう | 遊具・道具を使って |
| 8 声による表現：言葉をリズムで表わそう | 15 定期試験（90分） |
| 9 声による表現：ボイス・アンサンブル（リズムで合 | |

〔テキスト〕 講義中適宜指示する

〔参考文献〕 黒川建一編『保育内容「表現」』（ミネルヴァ書房）安田寛・今村方子・田中照通共著『子どものための音あそび集』（音楽之友社）佐藤千賀子編著『合奏楽譜百科』（ひかりのくに）山田俊之著『楽しいボディパーカッション①②③』（音楽之友社）板野平指導『みんなでやろうリトミック』（ひかりのくに）

〔授業形態〕 演習・発表

〔成績評価の方法〕 定期試験 50 %、平常の発表 40 %、平常点 10 %

61046

保育内容Ⅵ（表現活動・造形）

S 今井真理

〔概要〕 表現活動を指導するには幼児の造形的な発達段階等基礎的な知識を理解したうえで豊かな人間形成を培う必要がある。子どもの表現活動を題材にしながら指導する実践力を学び認識を深めるための演習を行う。

〔到達目標〕 受講者が表現活動の本質を理解することや基礎的な知識を理解したうえで保育者となるために必要な実践的指導能力を身に付けさせることを目標とする。

〔授業計画〕

- | | | |
|----------------|----------------|-------------|
| 1 オリエンテーション | 6 課題研究制作② | 11 課題研究制作⑥ |
| 2 課題の設定とグループ分け | 7 課題研究制作③ | 12 研究発表と討論① |
| 3 課題設定・関係資料収集① | 8 課題研究制作④ | 13 研究発表と討論② |
| 4 課題設定・関係資料収集② | 9 テーマの焦点化と中間発表 | 14 研究発表と討論③ |
| 5 課題研究制作① | 10 課題研究制作⑤ | 15 定期試験とまとめ |

〔テキスト〕 今井真理著『授業力アップ楽しくできる絵の指導と造形活動の実践—教師のスキルアップをめざす言葉かけのポイント』（明治図書）、『芸術療法の理論と実践—美術教育との関わりから—』（晃洋書房）

〔参考文献〕 文部科学省・厚生労働省児童家庭局「幼稚園教育要領・保育所保育指針」（チャイルド本社）

〔授業形態〕 演習・発表

〔成績評価の方法〕 平常点 20 %、定期試験 60 %、発表 20 %

61047 障害児保育

S / W 西木貴美子

〔授業題目〕 実践に生かす障害児保育

〔授業の概要及び到達目標〕 1. 一般の保育と障害児保育との連続性に気づかせ、一人ひとりの発達上の課題に対しての特別な保育ニーズと支援を明らかにする観点からの障害理解を促す。2. 障害児保育を支える理念に関して理解を深め、併せて、保育所、障害乳幼児通園施設等での保育の変遷と現状、及び今後の課題を理解させる。3. 様々な障害についての理解を促し、個別的な保育上の留意点について学習させる。4. 障害児保育場面における、日常生活動作、食事動作、排泄動作、更衣動作など具体的な保育方法について理解させる。5. 相談機関などの種類と内容を理解すると共に、障害児への個別的援助の概略と保護者を中心とした支援の内容に関して理解を深めさせる。

〔授業計画〕

- | | |
|---|--------------------|
| 1 オリエンテーション・障害のある子どもの保育とは | 8 広汎性発達障害（自閉症）児の保育 |
| 2 障害児保育を支える理念（インテグレーション・メ
インストリーミング・ノーマライゼーション・イン
クルージョン） | 9 広汎性発達障害（自閉症）児の保育 |
| 4 障害児保育の現状と課題 | 10 学習障害児の保育 |
| 5 専門機関とのよりよい連携 | 11 注意欠陥／多動性障害児の保育 |
| 6 知的障害児の保育 | 12 てんかんをもつ子の保育 |
| 7 知的障害児の保育 | 13 身体に障害のある子どもの保育 |
| | 14 家庭への子育て支援 |
| | 15 定期試験と解説 |

〔テキスト〕 若井淳二・水野薫・酒井幸子著『幼稚園・保育所の先生のための障害児保育テキスト』（教育出版）

〔参考文献〕 講義中に適宜指示する。

〔授業形態〕 演習

〔成績評価の方法〕 定期試験 60%、小テスト（レポート）等 40%

61048 乳児保育

W 竹村壽美子

〔授業題目〕 3歳未満児保育と保育士の資質

〔概要〕 保育所や乳児院などで乳児保育を担当する保育士として必要な乳児保育の意義および基本を理解する。特に、乳児（3歳未満児）の発達と保育について、理論や知識、技術の基本、保育者の役割などを具体的な事例をもとに修得する。

〔到達目標〕 乳児期の発達と三歳未満児の保育の方法を学ぶ。特に、0歳・1歳・2歳児の保育に欠くことのできない保育士と子どもの信頼関係をどう紡ぐか演習を通して体得する。

〔授業計画〕

- | | |
|----------------------|--------------------|
| 1 オリエンテーション（乳児保育の変遷） | 9 2歳児の保育内容 |
| 2 乳児保育の意義・基本 | 10 乳児保育を担当する保育士（1） |
| 3 生命の重みと心身の育ち | 11 乳児保育を担当する保育士（2） |
| 4 子どもが心身ともに豊かに育つとは | 12 乳児院の保育と役割 |
| 5 乳児の発達と援助・環境 | 13 乳児保育の計画・実際 |
| 6 0歳児の保育内容（1） | 14 乳児保育と子育て支援 |
| 7 0歳児の保育内容（2） | 15 定期試験・まとめ（今後の課題） |
| 8 1歳児の保育内容 | |

〔テキスト〕 増田まゆみ著『乳児保育』（北大路書房）

〔参考文献〕 保育所保育指針

〔授業形態〕 講義・演習・実習・レポート

〔成績評価の方法〕 定期試験 60点、平常点 40点

61049 養護内容

S 調 龍信

〔授業題目〕 児童養護の基本的援助、理解

〔概要〕 本講義は、子どもの養護と保育士・施設養護のプロセスの理解・保育士の基本的な養護援助・支援・こころの援助・親子関係の援助・地域・学校との関係づくり、整備の援助・自己実現・自立への支援・援助・児童福祉施設の運営管理について理解を深める

〔到達目標〕 1、模擬的に居住型の児童福祉施設などを利用している児童の立場になり、生活プログラムを作成などの演習をとおして、日常的に展開される具体的な児童の生活や、援助者の支援・援助を理解させる。2、児童の心身の成長発達を保障し援助するために必要な知識や技能を習得する。

〔授業計画〕

- | | |
|-----------------------|----------------------|
| 1 オリエンテーション（養護内容について） | 9 親子関係の援助の姿勢 |
| 2 新しい施設養護の理念 | 10 親子関係の調整における保育士の役割 |
| 3 施設養護の現状とその問題点 | 11 今日の親子関係の課題 |
| 4 施設養護の展開内容とその留意点 | 12 児童福祉施設と地域社会の関係作り |
| 5 保育士の基本的な養護援助・支援 | 13 自立支援計画の作成とポイント |
| 6 生活プログラムの作成 | 14 児童福祉施設における保育士の倫理 |
| 7 施設養護におけるこころの援助 | 15 定期試験 まとめ |
| 8 愛着関係形成への援助 | |

〔テキスト〕 辰巳隆・他編『保育士をめざす人の擁護内容』（株みらい）

〔参考文献〕 適宜紹介する。

〔授業形態〕 講義・演習

〔成績評価の方法〕 定期試験 70%、レポート等 20%、出席等平常点 10%

61050

幼児理解の理論と方法

W 上野淳子

〔授業題目〕 幼児理解の理論と方法

〔概要〕 授業計画は、様々な乳幼児の発達の側面を、それに影響を与える要因（たとえば、親子関係、仲間関係との集団生活など）との関連から学ぶという内容によって作成する。授業形態は、講義を中心としているが、受講者が理解を深めるために、小レポートや小テストなどを取り入れる。

〔到達目標〕 本講義は、乳幼児教育の専門家を目指すことを前提に、子どもの発達についての基本的知識や考え方を学び、子どもの発達に影響を及ぼす保護者や保育者と子どもとの関係などについて理解すること、及び乳幼児が示す問題行動を理解し、対応できる知識を身につけ、教育相談の方法を学ぶことを目標とする。

〔授業計画〕

- | | |
|----------------------------------|-------------------------|
| 第1回 子どもの発達と教育・保育との関係 | 第8回 幼児期の仲間関係・きょうだい関係 |
| 第2回 幼児のコミュニケーション能力の発達と親のかかわり方の影響 | 第9回 幼児の集団生活への適応 |
| 第3回 幼児の知能・発達の測定 | 第10回 幼児期の問題行動 |
| 第4回 幼児の読み書き能力の発達と早期教育 | 第11回 乳幼児をもつ親の発達 |
| 第5回 幼児の数概念の獲得 | 第12回 特別支援教育における幼児期の位置づけ |
| 第6回 幼児の学習と文化の影響 | 第13回 保護者への対応の仕方 |
| 第7回 メディアが幼児に与える影響 | 第14回 教育相談の方法 |
| | 第15回 定期試験 |

〔テキスト〕 本郷一夫（編）『シードブック発達心理学』（建帛社 2007年）

〔参考文献〕 本郷一夫・八木成和（編）『シードブック教育心理学』（建帛社 2008年）

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 専門用語や理論の理解度を評価するために定期試験を実施する（80％）。幼児の心理の理解度と保育方法の理解度を評価するために小テストと小レポートを実施し、平常点（20％）とする。

61061

国語

W 今井 進

〔授業題目〕 国語科の目標や内容を理解する

〔概要〕 国語科教育に携わるときに求められる国語力を養うとともに、幼児の言語教育の重要性についても理解を深める。

〔到達目標〕 国語科の三領域一事項についての基礎的な内容を理解し、指導のための能力を養う。

〔授業計画〕

- | | |
|------------------|-------------------------|
| 1 幼児期から学童期へ | 9 「書くこと」の指導 |
| 2 学童期のことば | 10 「読むこと」の指導 |
| 3 各学年の目標と内容の概略 | 11 「読むこと」の指導 |
| 4 入門期の指導 | 12 「読むこと」の指導 |
| 5 入門期の指導 | 13 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 |
| 6 「話すこと・聞くこと」の指導 | 14 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 |
| 7 「話すこと・聞くこと」の指導 | 15 定期試験 |
| 8 「書くこと」の指導 | |

〔テキスト〕 講義中指示する

〔参考文献〕 講義中適宜指示する

〔授業形態〕 講義・演習

〔成績評価の方法〕 定期試験 60％、平常点 40％

61062

算数

S 川口隆雄

〔授業題目〕 算数科内容の理解

〔概要〕 これまでに学習してきた数学を基にして、小学校算数科の4つの領域（数と計算・図形・量と測定・数量関係）に関連した数学的内容を解説するとともに数学的な話題を幅広く取り入れる。講義と演習で、知識だけでなく実際に演習問題を解くことによってより深く理解できるよう配慮する。

〔到達目標〕 受講者が算数について理解を深め、さらに基礎となる数学的背景を理解することを目標とする。

〔授業計画〕

- | | | |
|--------------|--------------|-----------------|
| 第1回 算数科指導内容 | 第6回 分数・小数 | 第11回 図形と定理2 |
| 第2回 数の概念 | 第7回 量と測定（単位） | 第12回 図形の話 |
| 第3回 記数法 | 第8回 量と測定 | 第13回 数量関係（関数・式） |
| 第4回 四則計算の導入 | 第9回 平面図形 | 第14回 数量関係（統計） |
| 第5回 筆算、整数の性質 | 第10回 図形と定理1 | 第15回 定期試験 |

〔テキスト〕 プリントを配布する。

〔参考文献〕 文部科学省「小学校学習指導要領解説」算数編、東洋館、2008

〔授業形態〕 講義・演習

〔成績評価の方法〕 定期試験 60％、平常点 40％

61063

生活

W 丹羽孝昭

〔授業題目〕生活科の目標と指導内容
〔概要〕幼小連携をふまえた小学校教育と生活科誕生の経緯を取り上げた教科の意義を明らかにする。さらに、生活科の目標とねらい、基本的な指導内容をもとに生活科の授業の実践事例を紹介していく。

〔到達目標〕生活科の意義や目標、目ざす子ども像についての理解を図るとともに、教材等についての実践的研究を深めることを通して、識見を深める。

〔授業計画〕

- | | |
|----------------------|-----------------------|
| 1 生活科の教科目標とめざす子ども像 | 9 「飼育活動」②小動物や昆虫の育て方 |
| 2 生活科の誕生とその意義 | 10 「制作活動」①指導のあり方 |
| 3 幼小連携と生活科の活動や体験 | 11 「制作活動」②動くおもちゃの作り方 |
| 4 「探検活動」①指導のあり方 | 12 「遊び」の意義と教材化 |
| 5 「探検活動」②学校探検や町探検の実施 | 13 「生活や出来事との交流」指導のあり方 |
| 6 「栽培活動」①指導のあり方 | 14 「自己の成長」指導のあり方と表現活動 |
| 7 「栽培活動」②栽培の基礎技術 | 15 定期試験 |
| 8 「飼育活動」①指導のあり方 | |

〔テキスト〕・文部科学省「小学校学習指導要領解説 生活編」(日本文教出版)・奥始著「生活科教育法」(ゼロックスドキュメンタリーセンター)

〔参考文献〕講義中適宜紹介

〔授業形態〕講義・演習

〔成績評価の方法〕次の事項に基づく総合評価 (1) 定期試験 80 % (2) 課題提出物等平常点 20 %

61064

音楽理論

S 恒川裕子

〔授業題目〕演奏する為に必要な楽譜の理解

〔概要〕楽譜には様々な記号が書かれており、これらは楽曲を演奏する時に必要なルールや音楽情報を、実に合理的に示している。この授業では、17 C後半にヨーロッパで完成された楽譜の知識を広め、音楽を実践する上で大切な基礎の1つである、音楽理論を習得する。

〔到達目標〕①教育現場に必要な初見演奏、簡易伴奏付、アレンジなどの習得。②理論を通して子供たちが生き活きと歌ったり、動いたりすることの出来る、表現力豊かな演奏に役立つ知識を取り入れる。

〔授業計画〕

- | | |
|-------------------------|-------------------------|
| 1 オリエンテーション五線譜の規則・音符・休符 | 9 様々なコードネームとその使い方 (2) |
| 2 拍・拍子・リズム (1) | 10 様々なコードネームとその使い方 (3) |
| 3 拍・拍子・リズム (2) | 11 アレンジの実習 (1) 伴奏形の研究 |
| 4 音程について (1) | 12 アレンジの実習 (2) ピアノ伴奏を作る |
| 5 音程について (2) | 13 アレンジの実習 (3) まとめ |
| 6 音程について (3) | 14 音楽用語の読みと意味 |
| 7 音階の構造移調と転調 | 15 定期試験 (筆記試験) |
| 8 様々なコードネームとその使い方 (1) | 備考 聴音を行う |

〔テキスト〕「これでわかる! はじめての楽譜の読み方」石川良子著 kmp (ケーエムピー)

〔参考文献〕「ピアノレッスン①～③」森本琢郎・内藤雅子共編 (株)ドレミ楽譜出版社・「弾きながらコードネームが学べるやさしいピアノ伴奏法」音楽之友社・自作の補助プリント

〔授業形態〕講義・演習・発表

〔成績評価の方法〕定期試験 70 %、小テスト・平常点 30 %

61065

児童文化

W 松山由美子

〔概要〕子どもをとりまく社会や文化環境は急激に変貌しつつあります。児童文化の歴史や内容を知るだけでなく、現代の児童文化についても学びます。講義だけでなく実際に自分も体験しながら学ぶ中で、子どもたちにとって今後どのような文化を保育の中で提供すればよいかを考えます。

〔到達目標〕保育に携わる者として、また次代に文化を伝達する大人として、自分が生きてきた文化を見直し、自らが児童文化の伝達者となる活動を通して、児童文化について考察することを目的とします。主な学習内容は以下のとおりです。1) 児童のための法律。2) 児童文化をとりまく要素。3) 素話 (実技)・大型絵本・手あそびビデオなど。

〔授業計画〕

- | | |
|---------------------------------|----------------------------|
| 1 オリエンテーション・児童文化とは | 9 絵本 (2) 絵本による相互交渉・ビデオ絵本 |
| 2 児童文化の誕生と児童の権利 児童観の変遷と児童に関する政策 | 10 児童文化に携わる (1) 文化の伝承者になろう |
| 3 児童文化に関する理論 アニメーションを支える文化 | 11 児童文化に携わる (2) 文化財制作 (1) |
| 4 素話 素話に必要な技術など | 12 児童文化に携わる (3) 文化財制作 (2) |
| 5 おもちゃと子ども (1) 人形あそびの変遷 | 13 児童文化に携わる (4) 文化財制作 (3) |
| 6 おもちゃと子ども (2) プラモデル・ミニカーの変遷 | 14 素話発表会 1 |
| 7 おもちゃと子ども (3) 電子ゲーム・伝承遊び | 15 素話発表会 2 |
| 8 絵本 (1) 絵本に関する理論・絵本の構成 | 備考 素話は毎回行います |

〔テキスト〕特になし

〔参考文献〕浅岡靖央ほか (編著)『子どもの育ちと文化』(相川書房) 永田桂子『よい「おもちゃ」とはどんなもの?』(チャイルド本社) 相馬和子『お話とその魅力』(萌文書房)

〔授業形態〕講義・演習・発表

〔成績評価の方法〕実技試験 35 %、レポート 35 %、平常点 30 %

61066

図画工作 I

S 今井真理

〔概要〕 要〕 保育社が造形的な表現活動を指導するには保育者自らが子どもの自由な発想や行動を柔軟に受け止める必要がある。図画工作 I では主に平面分野を中心に幼児の表現活動について子どもの造形表現を題材にしながら素材や原理について学ぶ。

〔到達目標〕 受講者が子どもの造形活動や描画の発達段階を通して平面分野の知識を理解することを目標とする。

〔授業計画〕

- | | |
|------------------------------|--------------------|
| 1 オリエンテーション（幼児教育における造形表現の目的） | 8 絵本作成資料収集 |
| 2 描画素材による技法① | 9 絵本を作ろう①（つか見本作成） |
| 3 描画素材による技法② | 10 絵本を作ろう②（絵本制作） |
| 4 描画素材による技法③ | 11 絵本を作ろう③（絵本制作） |
| 5 描画素材による技法④ | 12 絵本を作ろう④（絵本制作） |
| 6 幼児の描画と発達段階（講義と演習） | 13 作品発表（プレゼンテーション） |
| 7 絵本とは（概要説明） | 14 作品発表（プレゼンテーション） |
| | 15 定期試験とまとめ |

〔テキスト〕 今井真理著『授業力アップ楽しくできる絵の指導と造形活動の実践—教師のスキルアップをめざす言葉かけのポイント』（明治図書）、『芸術療法の理論と実践—美術教育との関わりから—』（晃洋書房）

〔参考文献〕 文部科学省・厚生労働省児童家庭局「幼稚園教育要領・保育所保育指針」（チャイルド本社）

〔授業形態〕 演習・発表

〔成績評価の方法〕 平常点 20 %、定期試験 60 %、発表 20 %

61067

図画工作 II

W 今井真理

〔概要〕 要〕 図画工作 I で学んだことを生かして、主に立体分野を中心に幼児期の教育の中でも大切と思われる表現活動についての基礎を子どもの造形活動にて使用される題材を中心に造形原理について学習する。

〔到達目標〕 受講者が子どもの造形活動を通し立体分野の基礎的な知識を理解することを目標とする。

〔授業計画〕

- | | |
|----------------|---------------------|
| 1 紙を使用した造形活動① | 9 廃材を使用した造形活動③ |
| 2 紙を使用した造形活動② | 10 廃材を使用した造形活動④ |
| 3 紙を使用した造形活動③ | 11 採用試験実技対策①（講義と演習） |
| 4 粘土による造形活動① | 12 採用試験実技対策②（講義と演習） |
| 5 粘土による造形活動② | 13 作品発表①（プレゼンテーション） |
| 6 粘土による造形活動③ | 14 作品発表②（プレゼンテーション） |
| 7 廃材を使用した造形活動① | 15 定期試験とまとめ |
| 8 廃材を使用した造形活動② | |

〔テキスト〕 今井真理著『授業力アップ楽しくできる絵の指導と造形活動の実践—教師のスキルアップをめざす言葉かけのポイント』（明治図書）、『芸術療法の理論と実践—美術教育との関わりから—』（晃洋書房）

〔参考文献〕 文部科学省・厚生労働省児童家庭局「幼稚園教育要領・保育所保育指針」（チャイルド本社）

〔授業形態〕 演習・発表

〔成績評価の方法〕 平常点 20 %、定期試験 60 %、発表 20 %

61068

小児体育 I

S 伊達由実

〔授業題目〕 運動あそびの研究と実践

〔概要〕 身体運動に関する基本的な知識を理解するとともに、身体能力や運動機能を高める。また、保育の中で取り上げる運動あそびに関する教材・指導案を作成し実施することで、指導に必要な知識や技能を修得する。さらに、運動あそびにおける安全管理についても学び、理解を深める。

〔到達目標〕 本講義は、乳幼児の身体運動について理解し、子どもの成長に即した運動あそびを計画・実施する知識や技能を身につけることを目標とする。

〔授業計画〕

- | | |
|--------------------------------------|------------------------|
| 第1回 運動あそび指導の基礎技法 (I) — 「遊び」を醸し出す技術— | 第7回 歩・走・跳を中心とした運動あそび |
| 第2回 運動あそび指導の基礎技法 (II) — 「遊び」を醸し出す技術— | 第8回 ものまねによる運動あそび (I) |
| 第3回 器具を利用した運動あそび (I) 跳箱・マット・鉄棒・平均台 | 第9回 ものまねによる運動あそび (II) |
| 第4回 器具を利用した運動あそび (II) 跳箱・マット・鉄棒・平均台 | 第10回 リズム運動あそび (I) |
| 第5回 手具やボールを使った運動あそび (I) | 第11回 リズム運動あそび (II) |
| 第6回 手具やボールを使った運動あそび (II) | 第12回 障害を持った子どもの運動あそび指導 |
| | 第13回 「家族支援」としての運動あそび指導 |
| | 第14回 水遊び |
| | 第15回 テストとまとめ |

〔テキスト〕 岩崎洋子編著『保育と幼児期の運動あそび』（萌文書林）

〔参考文献〕 講義中適宜指示する

〔授業形態〕 演習

〔成績評価の方法〕 指導案作成などのレポート 30%、実技 30%、テスト 40%

61069

小児体育 II

W 伊達由実

〔授業題目〕 運動あそびの研究と実践

〔概要〕 この科目は、あそびの専門家としての保育士能力の幅を広げることを目的として、「小児体育 I」では扱えなかった内容を補足し学修する。保育現場における「名のない遊び」などの多種多様な運動あそびについて実践を通して理解を深め、子どもの生活に即した技能および知識を身につける。

〔到達目標〕 本講義では、乳幼児にとっての運動あそびの意義を理解し、遊びの中で成長する子どもに寄り添って援助、支援ができる保育力を身につける。

〔授業計画〕

- | | |
|--|---|
| 第1回 オリエンテーション—この授業における「運動あそび」とは— | —まとめ— |
| 第2回 「運動あそび」と子どもの育ち (1) —ビデオ『里山保育が子どもを変える』を見て— | 第9回 絵本の中の運動あそび (1) —絵本を選ぶ— |
| 第3回 「運動あそび」と子どもの育ち (2) —保育・発達と運動あそび— | 第10回 絵本の中の運動あそび (2) —「面白さ」の研究— |
| 第4回 「名のない遊び」としての運動あそび (1) —歩く楽しさ、走る楽しさ— | 第11回 絵本の中の運動あそび (3) —絵本を体験する— |
| 第5回 「名のない遊び」としての運動あそび (2) —跳ぶ楽しさ、ころがる楽しさ— | 第12回 運動あそびにかかわる諸問題 (1) —運動不足と運動あそび— |
| 第6回 「名のない遊び」としての運動あそび (3) —引っばる楽しさ、押す楽しさ— | 第13回 運動あそびにかかわる諸問題 (2) —キッズ・スポーツと運動あそび— |
| 第7回 「名のない遊び」としての運動あそび (4) —掘る楽しさ、運ぶ楽しさ、固める楽しさ— | 第14回 運動あそびにかかわる諸問題 (3) —子どもをとりまく環境と運動あそび— |
| 第8回 「名のない遊び」としての運動あそび (5) | 第15回 テストとまとめ |

〔テキスト〕 岩崎洋子編著『保育と幼児期の運動あそび』（萌文書林）

〔参考文献〕 講義中適宜指示する

〔授業形態〕 演習・発表・討論

〔成績評価の方法〕 平常点（討論参加など）40%、小レポート 30%、テスト 30%

61070
音楽Ⅰ（器楽）

S / W 原 祐子 石田陽子 恒川裕子 奥千恵子
玉置奈津子 平田道子 山根裕子

〔概要〕 ピアノに関する基本的な知識や技能を身につけ、ひいては、保育の中で取り扱う教材やそれらを展開するために必要な知識や技能を習得させる。同時に、豊かな音楽的表現力と美しい音色に対する感覚を養う。

〔到達目標〕 1クラスを進度別の5班に分けてレッスンをを行い、バイエル・ブルグミュラー・ソナチネをより難度の高い課題へと進め、基本的な知識や技能を習得する。また、「子どもの歌」の弾き歌いにも取り組む。

〔授業計画〕

- | | |
|---|--|
| 1 履修方法の説明と班分けテスト | 8 バイエル 80・81 番 バイエル終了者は同上 |
| 2 バイエル 50～55 番 入学時にバイエル終了者はバイエル 100・102・104 番 | 9 バイエル 82・88 番 バイエル終了者は同上 |
| 3 バイエル 56～60 番 入学時にバイエル終了者はバイエル 100・102・104 番 | 10 発表会（テスト） |
| 4 バイエル 61～70 番 入学時にバイエル終了者はバイエル 100・102・104 番 | 11 弾き歌い曲 バイエル 96・100 番 バイエル終了者は同上 |
| 5 発表会（テスト） | 12 弾き歌い曲 バイエル 100・102 番 バイエル終了者は同上 |
| 6 バイエル 72・73 番 バイエル終了者は順次ブルグミュラー・ソナチネの中より個人の能力に応じた課題に取り組む | 13 弾き歌い曲 バイエル 100・102・104 番 バイエル終了者は同上 |
| 7 バイエル 74・78 番 バイエル終了者は同上 | 14 弾き歌い曲 バイエル 100・102・104 番 バイエル終了者は同上 |
| | 15 定期試験（90分） |

〔テキスト〕 『バイエル』『ブルグミュラー 25 練習曲』『ソナチネアルバム 1・2 巻』（全音楽譜出版社）『こどものうた 200』（チャイルド本社）

〔参考文献〕

〔授業形態〕 演習

〔成績評価の方法〕 定期試験（実技）80％、発表会（テスト）等平常点 20％

61081
音楽Ⅱ（器楽）

W 原 祐子 恒川裕子 奥千恵子 玉置奈津子 平田道子 山根裕子

〔概要〕 音楽Ⅰで身につけた、ピアノに関する基本的な知識や技術をさらに向上させ、より難度の高い教材をも展開させられる実践的な知識や技能を習得させる。同時に、豊かな音楽的表現力と美しい音色に対する感覚も深めていく。

〔到達目標〕 音楽Ⅱの単位習得要件は、バイエル 100・102・104 番に合格の上、ブルグミュラーの指定された曲目、もしくはソナチネまで到達していること。さらに「子どもの歌」の課題曲の弾き歌いにも合格していること。

〔授業計画〕

- | | |
|---|---|
| 1 園生活の歌の弾き歌い バイエル 80・81 番
バイエル終了者は順次ブルグミュラー・ソナチネ・ソナタの中より個人の能力に応じた課題に取り組む | 7 バイエル 100～104 番 バイエル終了者は同上 |
| 2 園生活の歌の弾き歌い バイエル 82～88 番
バイエル終了者は同上 | 8 発表会（テスト） |
| 3 園生活の歌の弾き歌い発表会 | 9 ブルグミュラー 12 番以降の一曲 あるいはソナチネ・ソナタより 1 曲（第 1 楽章か速い楽章） |
| 4 バイエル 96～100 番 バイエル終了者は同上 | 10 同上 |
| 5 バイエル 100・102 番 バイエル終了者は同上 | 11 同上 |
| 6 バイエル 102・104 番 バイエル終了者は同上 | 12 同上 |
| | 13 同上 |
| | 14 同上 |
| | 15 定期試験（90分） |

〔テキスト〕 『バイエル』『ブルグミュラー 25 練習曲』『ソナチネアルバム 1・2 巻』『ソナタアルバム 1・2 巻』（全音楽譜出版社）

〔参考文献〕

〔授業形態〕 演習

〔成績評価の方法〕 定期試験（実技）70％、発表会（テスト）等平常点 30％

61082

音楽Ⅲ（声楽・鑑賞）

S 原 祐子

〔概要〕 要) 保育内容を展開する上で必要とされる歌唱に関わる技能を習得することを目的とする。保育者として、子どもがうたや音楽によって表現することを通して味わう喜びを共有できるよう感性を磨き、手あそびの基本的な技術も身につける。

〔到達目標〕 保育現場で、子どもがともに歌いたくなるような感性豊かな表現力あふれる歌唱技術を身につけ、手あそびや子どもの歌のレパートリーを増やす。

〔授業計画〕

- | | |
|----------------------------|-------------------------------|
| 1 大きな声で歌ってみよう | 8 手あそび、子どもの歌の歌唱（斉唱と合唱のテスト） |
| 2 ビデオ鑑賞（手あそび・ゆびあそび） | 9 手あそび、子どもの歌の歌唱（乗り物の歌） |
| 3 手あそび、子どもの歌の歌唱（春・夏の季節の歌） | 10 手あそび、子どもの歌の歌唱（食べ物の歌） |
| 4 手あそび、子どもの歌の歌唱（園生活の歌） | 11 仲良しあそび、子どもの歌の歌唱（色々な歌） |
| 5 手あそび、子どもの歌の歌唱（斉唱と合唱のテスト） | 12 仲良しあそび、子どもの歌の歌唱（斉唱と重唱のテスト） |
| 6 手あそび、子どもの歌の歌唱（春夏の園の行事の歌） | 13 組みあそび、子どもの歌の歌唱（色々な歌） |
| 7 手あそび、子どもの歌の歌唱（生き物の歌） | 14 組みあそび、子どもの歌の歌唱（合唱曲） |
| | 15 定期試験（90分） |

〔テキスト〕 小林美実編著『こどものうた 200』（チャイルド本社） 小林美実編著『続こどものうた 200』（チャイルド本社）

〔参考文献〕 ちいさいなかま編集部編『手あそび・うたあそび』（草土文化） 植田光子編『手あそび百科』（ひかりのくに） 鈴木恵津子編『うたって おどって おもちゃ箱』（教育芸術社）

〔授業形態〕 演習・発表

〔成績評価の方法〕 定期試験 40 %、平常授業時の試験 30 %、平常の発表 20 %、平常点 10 %

61083

音楽Ⅳ（声楽・鑑賞）

W 原 祐子

〔概要〕 要) 保育実践の場で保育内容を展開する上で必要とされる、歌唱に関わる技能をさらに充実発展させる。表現から創作へと自身の表現意欲を高めつつ、子どものさまざまな心の表現を受け止め、共感し、見守ることができる感性を磨く。

〔到達目標〕 表現遊びから劇遊びへと子どもの表現意欲を理解し、心に残る絵本の世界を歌や音楽で立体的に創り上げる。この体験を通して、保育現場での実践力を培う。

〔授業計画〕

- | | | |
|------------------------------------|-------|---------------------------|
| 1 子どもの歌の歌唱（秋・冬の季節の歌）、現代の子どもの歌の歌唱 | 作曲・編曲 | 8 動きも付けての表現（歌いながら動いてみよう） |
| 2 子どもの歌の歌唱（秋・冬の園の行事の歌）、現代の子どもの歌の歌唱 | | 9 動きも付けての表現（歌いながら動いてみよう） |
| 3 現代の子どもの歌（テスト） | | 10 動きも付けての表現（歌いながら動いてみよう） |
| 4 ビデオ鑑賞（先輩の絵本ミュージカル発表会） | | 11 小道具・大道具製作 |
| 5 想像から創造へ、絵本選定と話し合い | | 12 仕上げ |
| 6 歌と音楽で表現するための考案、工夫（選曲・作曲・編曲） | | 13 発表会 |
| 7 歌と音楽で表現するための考案、工夫（選曲・ | | 14 発表会 |
| | | 15 発表会 |

〔テキスト〕 小林美実編著『こどものうた 200』（チャイルド本社） 小林美実編著『続こどものうた 200』（チャイルド本社）

〔参考文献〕 神谷栄司著『ごっこ遊び・劇遊び・子どもの創造』（法政出版） 岩附啓子・河崎道夫共著『エルマーになった子ども達』（ひとなる書房）

〔授業形態〕 演習・発表

〔成績評価の方法〕 絵本ミュージカル発表会 70 %、平常授業時の試験 20 %、平常点 10 %

61084

音楽V (総合)

S 原 祐子

〔概要〕 基礎技能として学んだ器楽・歌唱の知識や技術を総合的に発展させ、より実践的な力を身につける。また、保育者として子どもが音や動きで表現することによって得る喜びを共有し、その心を育むことができるよう感性を磨く。

〔到達目標〕 専門職採用試験を視野に置き、保育現場で現在好んで歌われている歌の弾き歌い、和音判定やコードネームによる簡単な伴奏付け、伴奏の変奏、マーチ・スキップ曲等の演奏および初見視奏・視唱を学習する。

〔授業計画〕

- | | |
|--|---|
| 1 現代の子どもの歌の歌唱、和音記号と和音判定の説明 | 伴奏の変奏 |
| 2 現代の子どもの歌の歌唱、春・夏の子どもの歌の弾き歌い、和音記号による伴奏付け | 9 現代の子どもの歌の歌唱、行事の歌の弾き歌い、マーチ・ギャロップ・スキップ曲 |
| 3 現代の子どもの歌の歌唱、春・夏の子どもの歌の弾き歌い、和音記号による伴奏付け | 10 現代の子どもの歌の歌唱、食べ物の歌の弾き歌い、マーチ・ギャロップ・スキップ曲 |
| 4 現代の子どもの歌の歌唱、秋・冬の子どもの歌の弾き歌い、コードネームの説明 | 11 現代の子どもの歌の歌唱、食べ物の歌の弾き歌い、初見視奏 |
| 5 現代の子どもの歌の歌唱、秋・冬の子どもの歌の弾き歌い、コードネームによる伴奏付け | 12 現代の子どもの歌の歌唱、乗り物の歌の弾き歌い、初見視奏 |
| 6 現代の子どもの歌の歌唱、園生活の歌の弾き歌い、コードネームによる伴奏付け | 13 現代の子どもの歌の歌唱、乗り物の歌の弾き歌い、初見視唱 |
| 7 現代の子どもの歌の歌唱、園生活の歌の弾き歌い、伴奏の変奏 | 14 現代の子どもの歌の歌唱、色々な歌の弾き歌い、初見視唱 |
| 8 現代の子どもの歌の歌唱、行事の歌の弾き歌い、 | 15 定期試験 (90分) |

〔テキスト〕 小林美実編著『こどものうた 200』(チャイルド本社) 小林美実編著『続こどものうた 200』(チャイルド本社) 植田光子他編著『やさしい弾き歌い 75』(音楽之友社)

〔参考文献〕 大学音楽教育研究グループ編『歌唱教材伴奏法』(教育芸術社)

〔授業形態〕 演習・発表

〔成績評価の方法〕 定期試験中の実技テスト 40%、平常の発表 50%、平常点 10%

61085

総合演習 (3人ローテーション)

W 豊田 薫 蓮間忠芳 松岡 弘

〔概要〕 現代は国境を越えて人々の営為が影響を及ぼしあう時代である。それゆえ、児童生徒を「地球市民」として育成することは今日の教育の重要な課題である。この演習では、地球環境や少子高齢化等の人類に共通する問題やわが国社会全体に関わる問題を取り上げ、こうした諸問題に係る内容について児童生徒に適切な指導をすることができるよう、幅広い視野を養うことを目指す。

〔到達目標〕 今日の諸問題について理解を深め、「総合的な学習の時間」を指導する能力を培う。

〔授業計画〕

- | | |
|--------------------------|----------------------------|
| 1 ストレスマネジメントと癒し | 9 事故防止と危機管理の教育 (2) |
| 2 健康と長寿 | 10 事故防止と危機管理の教育 (3) |
| 3 再生医療と臓器移植 | 11 自然と環境 (1): 「総合学習」と環境教育 |
| 4 代替医療 | 12 自然と環境 (2): エネルギーとエントロピー |
| 5 暮らしに関する医療 | 13 自然と環境 (3): 環境と生命 |
| 6 エイズ・性感染症の予防教育と人権教育 (1) | 14 自然と環境 (4): 学生による発表と討論 |
| 7 エイズ・性感染症の予防教育と人権教育 (2) | 15 自然と環境 (5): 公害の歴史と現代 |
| 8 事故防止と危機管理の教育 (1) | |

〔テキスト〕 プリント他、授業にて参考文献等を紹介

〔参考文献〕 講義中適宜指示する

〔授業形態〕 講義・演習・発表・討論・AV機器使用

〔成績評価の方法〕 研究発表 (レポートを含む) 50%、平常点 (発表を含む) 50%

61086
保育実践演習Ⅰ

S

原 祐子 久家英述 東 隆史 伊達由実 今井真理
奥千恵子 竹村壽美子 松山由美子

〔授業題目〕 子ども・保育との出会い

〔概要〕 本科目は、保育の本質や原理に関する科目群と学外実習体験を融合させることによって、学生個々の保育主体形成の結節点とすべく設定されている、保育科教員のTT方式による演習である。演習のねらいにより基礎グループ、縦割りグループ、課題別グループ、学年別アッセンブリー、全体アッセンブリーなどに適宜編成実施される。学生には、受身でなく自ら積極的に参加する態度が要求されることに留意してほしい。

〔到達目標〕 保育や幼児教育の基本的な考え方を学び、子どもに対する見方や保育観に触れることにより、これからの学修への動機と見通しを確かなものにする。

〔授業計画〕

- | | |
|---|--|
| 1 オリエンテーション・自己紹介（基礎G・縦割りG編成） | 9 自己表現Ⅱわたしを表わす（1セメ基礎） |
| 2 1年次の期待と目標Ⅰ（全体・縦割り）実習オリエンテーション（1セメ全） | 10 自己表現Ⅲわたしを表わす（1セメ全） |
| 3 1年次の期待と目標Ⅱ（全体・縦割り）わたしを語る（保育科教員）（1セメ全） | 11 実習での学びに出会うⅡ（縦割り）（子ども・園・保育者・地域） |
| 4 実習での学びに出会うⅠ（全体・縦割り） | 12 実習での学びに出会うⅢ（全体）（子ども・園・保育者・地域） |
| 5 講演「幼稚園・保育所の日々」（1セメ全）（先輩保育者から学ぶ） | 13 講演「幼稚園・保育所の仕事」（全体）（幼稚園園長・保育所所長から学ぶ） |
| 6 模擬保育への参加Ⅰ（縦割り） | 14 「子ども・保育との出会い」について（基礎×2） |
| 7 模擬保育への参加Ⅱ（縦割り） | 15 まとめ |
| 8 自己表現Ⅰわたしを語る（1セメ基礎） | |

〔テキスト〕 プリント、資料、ワークシート等配布

〔参考文献〕 適宜指示する

〔授業形態〕 演習

〔成績評価の方法〕 平常点50%、レポート50%

61087
保育実践演習Ⅱ

W

原 祐子 久家英述 東 隆史 伊達由実 今井真理
奥千恵子 竹村壽美子 松山由美子

〔授業題目〕 子ども・保育を知る

〔概要〕 本科目は、保育の本質や原理に関する科目群と学外実習体験を融合させることによって、学生個々の保育主体形成の結節点とすべく設定されている、保育科教員のTT方式による演習である。演習のねらいにより基礎グループ、縦割りグループ、課題別グループ、学年別アッセンブリー、全体アッセンブリーなどに適宜編成実施される。学生には、受身でなく自ら積極的に参加する態度が要求されることに留意してほしい。

〔到達目標〕 保育学の諸領域に触れ、将来の子ども理解や保育実践につながる基本的な知見を会得し、子どもや保育をより実践的にみる視点を養う。

〔授業計画〕

- | | |
|--|---------------------------------------|
| 1 オリエンテーション（全体）夏学期を振り返り、冬学期の課題を考える 模擬保育練習（2セメ基礎） | 8 保育表現を試みるⅢ（縦割り）出前保育に向けて |
| 2 幼稚園実習に向けて（全体）模擬保育を試みる | 9 保育表現を試みるⅣ（2セメ全）出前保育に向けて |
| 3 幼稚園実習（観察） | 10 地域に出るⅠ（出前保育） |
| 4 幼稚園実習（観察） | 11 地域に出るⅡ（出前保育） |
| 5 実習体験をまとめる（含む礼状など）（全）実習体験を語る（縦割り） | 12 保育表現を振り返る（2セメ全）（出前保育の反省） |
| 6 保育表現を試みるⅠ（縦割り）出前保育に向けて | 13 講演「児童養護施設の仕事」（全体） |
| 7 保育表現を試みるⅡ（2セメ全）出前保育に向けて | 14 「子ども・保育を知る」について（基礎×2）
保育科で学んだもの |
| | 15 まとめ |

〔テキスト〕 プリント、資料、ワークシート等配布

〔参考文献〕 適宜指示する

〔授業形態〕 演習

〔成績評価の方法〕 平常点50%、レポート50%

**61088
保育実践演習Ⅲ**

S

原 祐子 久家英述 東 隆史 伊達由実 今井真理
奥千恵子 竹村壽美子 松山由美子

〔授業題目〕 子ども・保育にかかわる

〔概要〕 本科目は、保育の本質や原理に関する科目群と学外実習体験を融合させることによって、学生個々の保育主体形成の結節点とすべく設定されている、保育科教員のTT方式による演習である。演習のねらいにより基礎グループ、縦割りグループ、課題別グループ、学年別アッセンブリー、全体アッセンブリーなどに適宜編成実施される。学生には、受身でなく自ら積極的に参加する態度が要求されることに留意してほしい。

〔到達目標〕 計画—実践—省察という保育実践の基本に通じる演習を本格化するなかで、既習の保育学諸領域の知識・技能を確かめ、保育者としての実践知の基礎を吟味する。

〔授業計画〕

- | | |
|---|--|
| 1 オリエンテーション・自己紹介（基礎G・縦割りG編成） | 8 幼稚園実習（総合） |
| 2 2年次の課題と目標（全体・縦割り）保育実習の反省（3セメ全） | 9 幼稚園実習（総合） |
| 3 2年次の課題と目標（全体・縦割り）幼稚園・保育所実習に向けてI（3セメ全） | 10 実習体験をまとめる（3セメ全） |
| 4 実習体験を語るI（全体・縦割り） | 11 実習体験を語るII（縦割り）（子ども・園・保育者・地域） |
| 5 幼稚園・保育所実習に向けてII（模擬保育指導案作り） | 12 実習体験を語るIII（全体）（子ども・園・保育者・地域） |
| 6 模擬保育の実践I（縦割り） | 13 講演「幼稚園・保育所の仕事」（全体）（幼稚園園長・保育所所長から学ぶ） |
| 7 模擬保育の実践II（縦割り） | 14 「子ども・保育にかかわる」について（基礎×2） |
| | 15 まとめ |

〔テキスト〕 プリント、資料、ワークシート等配布

〔参考文献〕 適宜指示する

〔授業形態〕 演習

〔成績評価の方法〕 平常点50%、レポート50%

**61089
保育実践演習Ⅳ**

W

原 祐子 久家英述 東 隆史 伊達由実 今井真理
奥千恵子 竹村壽美子 松山由美子

〔授業題目〕 保育者のたまごになる

〔概要〕 本科目は、保育の本質や原理に関する科目群と学外実習体験を融合させることによって、学生個々の保育主体形成の結節点とすべく設定されている、保育科教員のTT方式による演習である。演習のねらいにより基礎グループ、縦割りグループ、課題別グループ、学年別アッセンブリー、全体アッセンブリーなどに適宜編成実施される。学生には、受身でなく自ら積極的に参加する態度が要求されることに留意してほしい。

〔到達目標〕 他者評価と自己省察を通して、子ども理解や保育理解のあり方を深め、保育者としての実践知を確かなものとしつつ、今後の自己課題を見定める。

〔授業計画〕

- | | |
|--|---------------------------------------|
| 1 オリエンテーション（全体）夏学期を振り返り、冬学期の課題を考える 幼稚園実習の反省（4セメ基礎） | 8 保育表現を試みるIII（縦割り）出前保育に向けて |
| 2 幼稚園実習（全体）模擬保育に参加する | 9 保育表現を試みるIV（4セメ全）出前保育に向けて |
| 3 保育表現を計画するI（4セメ全）出前保育（子育て支援）に向けて | 10 地域に出るI（出前保育（子育て支援）） |
| 4 保育表現を計画するII（4セメ全）出前保育（子育て支援）に向けて | 11 地域に出るII（出前保育（子育て支援）） |
| 5 保育所実習の反省（4セメ基礎）実習体験へのコメント（縦割り） | 12 保育表現を振り返る（4セメ全）（出前保育（子育て支援）の反省） |
| 6 保育表現を試みるI（縦割り）出前保育に向けて | 13 講演「児童養護施設の仕事」（全体） |
| 7 保育表現を試みるII（4セメ全）出前保育（子育て支援）に向けて | 14 「保育者のたまごになるわたし」について（基礎×2）保育科で学んだもの |
| | 15 まとめ |

〔テキスト〕 プリント、資料、ワークシート等配布

〔参考文献〕 適宜指示する

〔授業形態〕 演習

〔成績評価の方法〕 平常点50%、レポート50%

61090

教育実習指導 I (観察)

S / W 東 隆史 松山由美子

61101

教育実習 I (観察)

〔概要〕教育実習は、幼稚園での実践を通して、幼児理解を深め、保育者としての資質を磨くことができる機会です。幼稚園の保育目標・方法などを理解し、子どもを見る目と理解する心を育てるために見学・観察しつつ、保育活動に少しずつ参加しながら、大学で学んだ理論と実習での体験を融合させ、保育者としての自らを成長させましょう。教育実習 I の機会を有意義なものにするために教育実習指導 I があります。実習をとおして、自分の保育方法や技術、子ども観、保育観を形成することができるように、実習に必要な基礎的な内容を学びます。また、この教育実習 I が最初の学外実習となるので、教育実習 I だけでなく実習全般にわたって必要な基礎知識・予備知識を学びます。幼稚園を理解し、「保育者」としての子どもとのかかわり方を学ぶことで、実習に臨む態度を学びます。

〔到達目標〕教育実習を円滑に、かつ有意義に学習する機会とするための基本的な事項を習得することを目的とします。実習園における保育内容の理解、保育者としての資質、能力、技術を習得し、実習に臨む態度を育成するために理解すべき主な学習内容は以下のとおりです。1) 実習の意義と目的、および教育実習 I の意義と目的。2) 幼稚園および実習に関する予備的知識。3) 日誌など必要書類の記入方法。4) 既習の知識や技能を基礎とした、保育者としての子どもに対する理解とかかわり方。5) 部分案立案の基礎知識。

〔授業計画〕

第 1 回実習の目的と概要 教育実習 I とは／関係

書類等の確認と説明

第 2 回教育実習 I の目的と概要／実習園選定に関する諸注意

第 3 回事前訪問の概要／実習生としての基本的な心得

第 4 回幼稚園における幼児の生活・実習での 1 日の流れと学習内容

第 5 回日誌の書き方 (1) 重要性和記入のための基本事項

第 6 回日誌の書き方 (2) VTR を用いての日誌作成

第 7 回保育者としての自分・保育技術や知識の見直しと習得

第 8 回部分案と保育技術 (絵本の読み聞かせの部

分案を例に)

第 9 回実習生としての心構え (1) 先輩の実習体験談

第 10 回実習生としての心構え (2) 自己課題の設定

第 11 回実習における評価項目／実習直前の注意事項

第 12 回関係書類等の確認と説明・礼状や実習事後について

第 13 回個人による実習の反省・保育者としての自分の成長

第 14 回グループによる実習の反省 (グループ討議および発表)

第 15 回保育実習 I、教育実習 II に向けて

〔テキスト〕文部科学省・厚生労働省児童家庭局『幼稚園教育要領・保育所保育指針 (原本)』(チャイルド本社) 阿部恵・鈴木みゆき『教育・保育実習安心ガイド』(ひかりのくに)

〔参考文献〕森上史郎ほか (編)『保育用語辞典』(ミネルヴァ書房) 無藤隆『実践 新・幼稚園教育要領ハンドブック』(学習研究社)

〔授業形態〕講義・演習・実習

〔成績評価の方法〕教育実習指導 I : 提出物および平常点で 100 % 実習 I : 実習先の評価等 100 %

61102
教育実習指導Ⅱ（総合）
61103
教育実習Ⅱ（総合）

S 松山由美子

【概要】教育実習Ⅱでは、教育実習Ⅰや今までに大学で学んだ内容を深め、幼稚園の保育目標・方法などを充分理解したうえで、見学・観察だけでなく、保育活動に参加しながら、指導教諭のもとで指導案を作成し、責任をもって保育活動を行います。幼稚園での実践をとおして、今までより深く子どもを見る目と理解する心を育てます。大学で学んだ理論と実習での体験を融合させ、保育者としての自らを成長させましょう。教育実習Ⅱの機会を有意義なものにするために教育実習指導Ⅱがあります。保育活動が増える本実習をとおして、自分の保育方法や技術、子ども観、保育観を形成し、保育者となるための基礎を培うことができるように、実習に必要な内容を学びます。

【到達目標】教育実習を円滑に、かつ有意義に学習する機会とするための事項を習得することを目的とします。学外実習における保育内容の理解、保育者としての資質、能力、技術を習得し、実習に臨む態度と保育者となる自らを育成するために理解すべき主な学習内容は以下のとおりです。1) 教育実習Ⅱの意義と目的。2) 日誌など必要書類の記入方法。3) 指導計画の立案と作成。4) 環境の構成と教材研究。5) 既習の知識・技能と実習での経験の融合。

【授業計画】

- | | |
|-----------------------------|--|
| 第1回教育実習Ⅱの目的と概要／関係書類等の確認と説明 | いて |
| 第2回教育実習Ⅱの目的・内容評価・実習全体の流れ | 第12回個人による実習の反省・保育者としての自分の成長 |
| 第3回事前訪問の概要／実習生としての基本的な心得 | 第13回グループによる実習の反省（1）グループ討議 |
| 第4回実習生としての心構え（1）先輩の実習体験談 | 第14回グループによる実習の反省（2）グループ討議の発表会 |
| 第5回日誌の書き方（教育実習Ⅰとの違い） | 第15回保育実習Ⅱ、就職に向けて |
| 第6回部分案の書き方（1）指導計画の立案・環境の構成 | 備考 ※学習内容の理解だけではなく、実習生としての心構えやマナー・態度が形成されていることが教育実習には必要不可欠です。実習終了まで心身の健康に留意することと、本講義への理由なき欠席のないことが教育実習参加の最低条件です。※「教育実習指導Ⅱ」は、本講義と「教育実習指導（ピアノ）」とがセットになっていますので必ず両方を受講してください。評価も本講義での評価とピアノ指導における評価とを総合した結果となります。 |
| 第7回部分案の書き方（2）指導計画の作成 | |
| 第8回部分案の書き方（3）教材研究 | |
| 第9回保育者としての自分・保育技術や知識の見直しと習得 | |
| 第10回実習生としての心構え（2）自己課題の設定 | |
| 第11回関係書類等の確認と説明／実習事後につ | |
- 【テキスト】 文部科学省・厚生労働省児童家庭局『幼稚園教育要領・保育所保育指針（原本）』（チャイルド本社）
文部科学省『幼稚園教育要領解説』（フレーベル館）阿部恵・鈴木みゆき『教育・保育実習安心ガイド』（ひかりのくに）
- 【参考文献】 森上史郎ほか（編）『保育用語辞典』（ミネルヴァ書房）無藤隆『実践 新・幼稚園教育要領ハンドブック』（学習研究社）
- 【授業形態】 講義・演習・実習
- 【成績評価の方法】 教育実習指導Ⅱ：提出物・平常点 100% 実習Ⅱ：実習先の評価等 100%

61104

教育実習指導（ピアノ）

S 恒川裕子

㊦教育実習指導（ピアノ）

〔授業題目〕 児童に伝わる「実用音楽表現」

〔概要〕 幼稚園や学校教育における音楽の授業は、主に「一人で歌う・合唱する」「楽器で演奏する」「音楽を聴いて体で表現する」及び「鑑賞する」などであり、それらのどれに対しても「ピアノ演奏」が重要となる。指導者が活発な音楽の授業を展開するには、特に先ず、児童の持つ「声」の特質や、内在する自由な発想を理解し、音楽を表現する楽しさを味わわせる必要がある。この授業では、児童に的確に音楽を伝えられるような知識や技術を身につける。

〔到達目標〕 指導者としての認識を持ち、児童と一体感のある音楽の授業を展開できる実践力を養う。

〔授業計画〕

- | | |
|--------------------------------|--------------------------------|
| 1 オリエンテーション発声の基礎（楽しく歌おう） | テクニック（2） |
| 2 歌詞の理解と伝え方 | 9 児童が楽しく授業を受けられるためのピアノテクニック（3） |
| 3 歌唱表現 | 10 ピアノの音楽表現（1） |
| 4 実技テスト | 11 ピアノの音楽表現（2） |
| 5 ピアノの基礎テクニックと練習法 | 12 実技テスト |
| 6 多様な伴奏パターンの活用法 | 13 模擬授業（1） |
| 7 児童が楽しく授業を受けられるためのピアノテクニック（1） | 14 模擬授業（2） |
| 8 児童が楽しく授業を受けられるためのピアノ | 15 定期試験 |

〔テキスト〕 初等科音楽研究会編著、『初等科音楽教育法』、音楽之友社

〔参考文献〕 「音楽家ならだれでも知っておきたい「呼吸のこと」」（誠信書房）・「弾き歌い」攻略法（時事通信社／内外教育研究会）・その他自作の補助プリント

〔授業形態〕 講義・演習・発表・対話

〔成績評価の方法〕 定期試験 40 %、模擬授業 40 %、授業内実技テスト 20 %

61104

教育実習指導（ピアノ）

S 恒川裕子 奥千恵子 玉置奈津子 平田道子 山根裕子

〔概要〕 音楽Ⅰ・Ⅱに続き、ピアノに関してさらに高度な技術、より豊かな音楽的表現力、美しい音色に対する感覚を養うとともに、保育現場での音楽活動を視野に入れて学習する。

〔到達目標〕 授業内容は音楽Ⅰ・Ⅱの延長と考え、3セメ終了時にはピアノ曲・弾き歌い曲ともに自信を持って演奏できる曲目が必ず準備できているよう進めていく。

〔授業計画〕

- | | |
|--|---|
| 1 ブルグミュラー No.6,8,9 ソナチネ 1 巻
No.4,7,9 ソナチネ 2 巻 No.4,5,10,11 ソナタ
No.6,9 子どもの歌の弾き歌い | 8 子どもの歌の弾き歌いテスト |
| 2 同上 | 9 ブルグミュラー No.20,22 ソナチネ 1 巻
No.12,17,15 ソナタ No.2,13,22 |
| 3 同上 | 10 同上 |
| 4 同上 | 11 同上 |
| 5 ブルグミュラー No.9,12,14 ソナチネ 1 巻
No.1,5,10 ソナタ No.3,8 子どもの歌の弾き
歌い | 12 同上 |
| 6 同上 | 13 ソナチネ 1 巻 No.4,7,9 ソナチネ 2 巻
No.12,13,14,15 ソナタ No.12 |
| 7 同上 | 14 同上 |
| | 15 定期試験（90分） |

〔テキスト〕 『ブルグミュラー 25 練習曲』『ソナチネアルバム 1・2 巻』『ソナタアルバム 1・2 巻』（何れも全音楽譜出版社）小林美実編著『続こどものうた 200』（チャイルド本社）

〔参考文献〕

〔授業形態〕 演習

〔成績評価の方法〕 ピアノ実技テスト 70 %、弾き歌いテスト 20 %、平常点 10 % なお、成績はピアノ実技テストと教育実習指導の成績を総合して評価する

61105

保育実習指導Ⅰ（施設・保育所）

W 東 隆史 竹村壽美子

61106

保育実習Ⅰ（保育所）

61107

保育実習Ⅰ（施設）

〔授業題目〕初めての実習を円滑に進める為に

〔概要〕保育所の生活に参加し、乳幼児への理解を深めるとともに、保育所の機能、保育士の職務・役割を現場での実習を通して修得する。乳児保育・幼児保育の保育内容と展開については乳幼児の発達をふまえながら理解する。居住型児童福祉施設の生活に参加し、施設に入所している乳幼児や保護者への理解を深めるとともに、居住型児童福祉施設の機能とそこでの保育士の職務・役割を修得する。特に、養護技術・対応方法・援助方法は実際の活動を通して理解し、修得する。

〔到達目標〕保育所や居住型児童福祉施設の生活に参加実習するにあたり事前指導として実習に必要な保育方法や、実習生としての心得・記録方法等学ぶ。

〔授業計画〕

- | | |
|---------------------|--------------------|
| 1 オリエンテーション（実習諸手続） | 9 施設実習の意義・目的 |
| 2 保育所実習の意義・目的 | 10 施設実習の実習生としての心得 |
| 3 保育実習の実習生としての心得 | 11 生活援助とその方法 |
| 4 実習前のオリエンテーションについて | 12 施設実習の理解（一日の流れ） |
| 5 保育所の生活の理解 | 13 施設実習の段階と方法 |
| 6 記録の取り方（保育所実習ノート） | 14 記録の取り方（施設実習ノート） |
| 7 実習の段階と内容 | 15 定期試験・まとめ・事後指導 |
| 8 各種児童福祉施設について | |

〔テキスト〕民秋言著『保育所実習』『施設実習』（北大路書房）

〔参考文献〕『保育所・施設実習の手引き』（四天王寺大学・短大編）

〔授業形態〕講義・演習・実習

〔成績評価の方法〕実習指導Ⅰ 定期試験 60点、平常点 40点 実習Ⅰ・Ⅰ 評価点、実習ノート

61108

保育実習指導Ⅱ（施設・保育所）

S 竹村壽美子

61109

保育実習Ⅱ（保育所）

61110

保育実習Ⅲ（施設）

〔授業題目〕実習Ⅰを生かし更に深く学ぶ。

〔概要〕本科目は、選択による施設および保育所での実習を円滑に進めていくために既習した「保育実習Ⅰ（施設）」および「保育実習Ⅰ（保育所）」をもとに、保育士としての資質の向上を目指す。また、保育技能・養護・援助については、より深く理解できるようにする。

〔到達目標〕保育所の保育に参加するだけでなく、自らが保育を実践することで、保育士として必要な資質・能力・技術を修得する。また、「保育実習Ⅰ（保育所）」での実習体験を活かし、保育士としての職業倫理と子どもの最善の利益の具体化について学ぶ。居住型児童福祉施設の保育に参加するだけでなく、自らが保育を実践することで、施設の保育士として必要な資質・能力・技術を修得する。また、「保育実習Ⅰ（施設）」での実習体験を活かし、保育士としての職業倫理と子どもの最善の利益の具体化について学ぶ。

〔授業計画〕

- | | |
|--------------------|-------------------|
| 1 オリエンテーション（実習諸手続） | 9 実習ノートの書き方（施設） |
| 2 保育所実習の意義・基本 | 10 実習中の保育案の書き方（1） |
| 3 保育所・児童施設の役割 | 11 実習中の保育案の書き方（2） |
| 4 保育所・児童施設の保育内容 | 12 各種児童福祉施設の理解 |
| 5 実習の心構えと人間関係 | 13 各種児童福祉施設の理解 |
| 6 乳幼児のあそびと生活の実際（1） | 14 保育実習Ⅱ・Ⅲの自己課題設定 |
| 7 乳幼児のあそびと生活の実際（2） | 15 定期試験・まとめ・事後指導 |
| 8 実習ノートの書き方（保育所） | |

〔テキスト〕民秋言著『保育所実習』『施設実習』（北大路書房）

〔参考文献〕『保育所・施設実習の手引き』（四天王寺大学・短大編）

〔授業形態〕講義・演習・実習・レポート

〔成績評価の方法〕実習指導Ⅱ 定期試験 60点、平常点 40点 実習Ⅱ・Ⅲ 評価点、実習ノート